

五ノツバツ



2013夏季号 105

北海道ボランティア・レンジャー協議会

目 次

2013年 6月 27日 発行 105号 夏季号

<巻頭文> 驚きの地球Ⅲ～日本列島の誕生 会長 春日 順雄

1 定期総会に関して

- ・第28回、定期総会から 広報部
- ・定期総会の議案書から *総会の報告の後段、<会員の活動のコーナー欄>に、事務局長室野さんの紹介

2 自然観察会から

- ・三角山登山観察会 札幌市 上野 京子
- ・春の花を見つけよう 札幌市 濱野由美子
- ・ミスター・野幌「魔法のバック」の正体 札幌市 浅見 文貴

3 研究、調査、登山、連載などから

- ・鳥の“不思議”を知る一下見研修の報告 札幌市 道場 優
- ・寄生昆虫（パラサイト）Ⅰ、Ⅱ 千歳市 宮本 健市
- ・北大武山 * <台湾の五山の一つ登頂報告> 恵庭市 小林 英世
- ・<連載> エゾノイラクサのこと 苫小牧市 谷口勇五郎

4 支部活動、報告、活動予定など

- ・天狗山周辺・雪山歩きの自然観察会 小樽支部 石田 俊一
- ・十勝研修（ケショウヤナギを見よう）に参加して 帯広支部 長谷川俊治
- ・「ケショウヤナギを見よう」～十勝研修報告 会長 春日 順雄
- ・25年度 オホーツク支部秋季研修会について オホーツク支部 支部長 和泉 勇

5 平成25年度 ボランティア・レンジャー育成研修会、案内 自然ふれあい交流館

6 NOW 1, 2号 道場さん、田村さん、 昨年度のNOW 8号から 春日さん執筆

7 相馬市（福島県）、市長さんからの礼状

一前にも礼状はいただきましたが、今回は遺児孤児への支援金の設立に関して一
* 2年前の総会で<東日本震災>への支援に取り組んで。

8 事務局 便り

<編集後記>

驚きの地球Ⅲ～日本列島の誕生

春日 順雄

構造線

日本には無数の断層があります。その中で特に大規模な断層を構造線と呼んでいます。

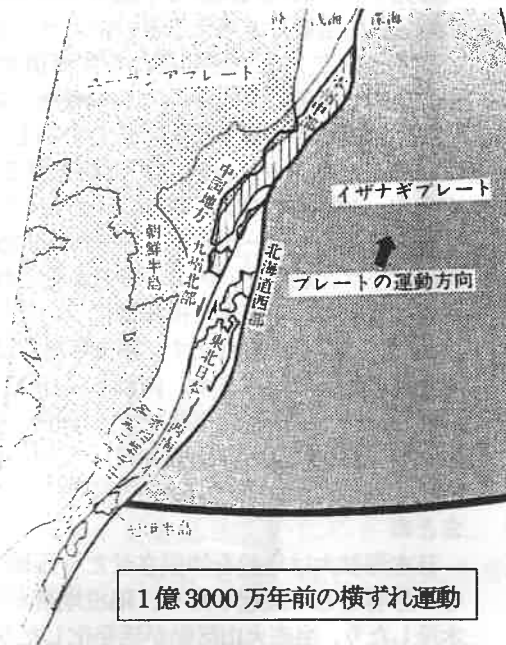
その代表的なものが、A～Bの糸魚川—静岡線とC～Dの中央構造線です。糸魚川—静岡線で東北日本と西南日本に区分します。中央構造線の北側を内帯、南側を外帯といいます。



構造線

中央構造線が出来た頃

下の地図は約1億3000万年前、白亜紀の横ずれ運



動を示しています。外帯は北へ内帯は南へと移動して重なっていきます。日本構造線はこのときに出来た横ずれ断層です。プレート底部に達する大断層です。

驚異の古地磁気データ

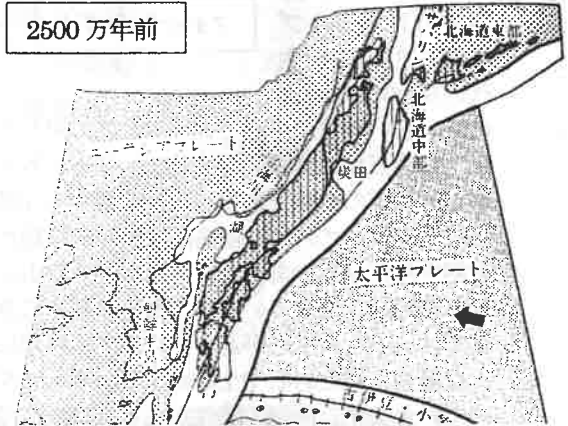
日本列島の岩石の古い地磁気方位の測定の結果、驚く事実が分かってきました。右図は、約1500万年以前の堆積岩の古地磁気の測定データを元に作成したものです。西南日本は



九州周辺を中心に時計回りに45°回転しています。東北日本は北海道周辺を中心に時計の反対方向に25°回転しています。これは、大陸周辺にあった日本列島が日本海の拡大により移動し、折れ曲がったからです。

日本海の拡大

日本列島は大陸とつながっていました。これは、約2500万年前の地図です。



アジア大陸が割れ始めて地溝帯（陥没した地形）がつくれ、広い範囲にわたって湖沼や河川が存在しました。約2000万年前から1500万年前、多量の玄武岩の貫入があつて地溝は拡大、深さを増して日本海が出来ました。500万年をかけて日本海の拡大は完了します。

1989年、日本海の形成を調べるために、日本海の6地点で掘削調査が行われました。その結果、日本海の海底は海洋底の特徴である玄武岩質であること。海嶺から流出する玄武岩プレートでなく、玄武岩貫入による海洋底であることが分かりました。

フォッサ・マグナ (Fossa Magna)

フォッサ・マグナはラテン語で「大きな切れ目」という意味です。大地溝帯とか大陥没地帯として世界的にも特異な地帯として知られています。エドムング・ナウマン、明治8年来日、弱冠21歳。帰国後「フォッサ・マグナ」と命名し『日本群島構造論』として発表しました。西側断層は糸魚川—静岡線、東側断層は岩村田—若神子線に囲まれた陥没地帯です。海が流れ込み、クジラの化石も見つかっています。約2250万年前のことです。(年代表記は『フォッサ・マグナ』信濃毎日新聞社刊による。)

現在、陸地化したこの地域には長野県人口の8割が住むと云う。(前掲書による)

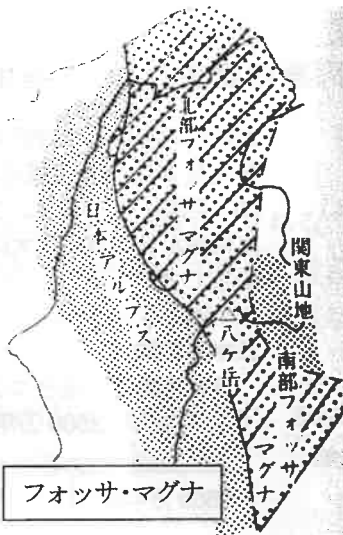
糸魚川—静岡線を境に地質的に大きな変化が見られます。「糸魚川—静岡線の両側は地形だけでなく、地質的にも対照的である。西側の日本アルプスは古生代や中生代の6000万年以上

の硬い古い地質が中心である。これに対して東側は、新生代第三紀の堆積岩が主体で、2000万年以降の新しい軟質の地層である。」(前掲書から引用)

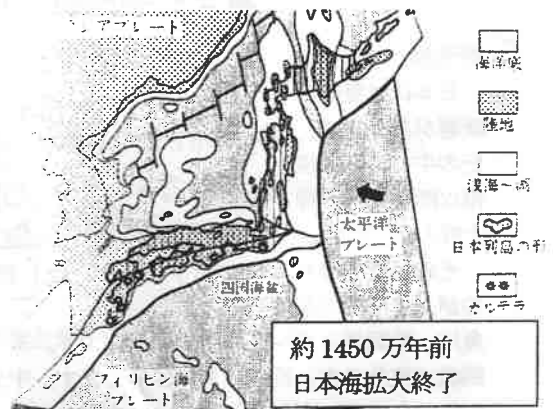
フォッサ・マグナの陸地化は西部の隆起が主たる役割を果たしています。日本アルプスの山々は深成岩の花崗岩で出来ています。現在の高さに至るまで数千メートルの隆起があったのです。隆起に伴う膨大な浸食された岩石や土砂がフォッサ・マグナを埋めていきます。両側の陸地からの堆積物で2000万年の歳月をかけて10000メートルもの厚い地層を堆積しました。それが隆起して現在の地形になっています。

グリーンタフ時代

右図参照、「約1400万年前に日本海の拡大は完了し、“日本列島”が誕生しました。しかし、誕生当時の列島は今とは大変異なった様相を示していました。まず、中部日本から東北日本にかけてはほとんど水没していました。列島が大陸から離れた1700万～1400万年前には、東北日本では、現在の日本海側の秋田～新潟にかけての一带と脊梁山脈にあたる所は、水深1500メートル程度の細長い海盆になっておりとくに、脊梁山脈では、海底の火山活動が盛んでした。この当時の水深は、低生有孔虫という微化石を指標に用いて復元されています。特筆されるべきは、この現在の脊梁山脈にあたる海盆の中では、火山活動に伴って、海水とマグマが反応し、熱水鉱床が作られました。これが硫化銅や硫化鉄を産する黒鉱鉱床です。」(『日本列島の誕生』岩波新書p162から引用) 北海道から裏日本、フォッサ・マグナ地域、九州にかけての多数の金属鉱床はこの時期に誕生したものです。秋田県の花岡鉱山・小坂鉱山の鉱床はこの時期に誕生したものです。



グリーンタフ時代は、激しい海底の火山活動と大



量の火山噴出物が堆積した緑色の溶結凝灰岩が特徴です。その年代表記は、本やネット資料によってばらつきがあります。2000万年前から(日本海拡大の始まり)、から1000万年前頃(積丹や小樽赤岩の海底火山活動)と考えるといいようです。

グリーンタフは千島列島から北海道オホーツク側、西南北海道、東北日本の日本海側、フォッサ・マグナ、西日本の日本海側に広く分布しています。

北海道でもグリーンタフの形跡を見ることが出来ます。小樽祝津では見事な岩頭が見られます。小樽を出発、追分ソーランラインを南下すると右手の海にローソク岩など、沢山の奇岩が見られます。小樽オタモイの山中海岸を祝津側に歩いて行くと、焼けた崖が見られます。積丹半島では奇岩・美岩を見ることが出来ます。何れも、1000万年前頃のグリーンタフ活動の形跡です。(参照、『札幌の自然を歩く』北海道大学出版会刊)

まとめ

日本海拡大は地殻を伸張させたり圧縮させたり、その影響として隆起したり、陥没地帯が出来たり、水没したり、海底火山活動が活発化したりということが起こりました。日本海拡大、日本列島移動、フォッサ・マグナ、グリーンタフ時代は同時進行の大地殻変動です。

何がこの大地殻変動を引き起こしたのでしょうか。太平洋・フィリピン海・北米・ユーラシアの各プレートのせめぎ合いなど、全アジアを範囲とする考察が必要です。

まさに「驚きの地球」であります。

<参考としたもの>

- ・「日本列島の誕生」 岩波新書
- ・「フォッサ・マグナ」 信濃毎日新聞社刊
- ・「札幌の自然を歩く」 北海道大学出版会刊

※文中の地図は、参考とした図書から引用しました。

第 28 回 定期総会 (4 月 20 日)

「研修会」

総会に先立ち研修会が行われ、井口 博貴氏よりご自身の出版された「美への気づき・醜さへの気づき ニューエコロジー」の内容を基にお話しいただきました。

まず環境問題を分類化することから、各問題の独自性、関連性、総合性が見えてくると思われ、問題解決への道が開けやすくなるのではなかろうかという事です。

環境問題	地域環境問題	
	直接体験型	ごみ問題、悪臭、騒音、排気ガス、 その他五感で感じるもの
	間接知識型	ダイオキシン、汚染野菜、原子力施設からの放射能、電磁波、その他その地区において危険であるという情報を得たもの
	地球環境問題	
	現状進行型	地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊、野生動植物の減少、地下資源の枯渇、 土壌の劣化、人口問題等
	未来危惧型	核戦争、現状進行型の加速による地球及び全生命の危機

この分類をもとに環境教育がなされ、人類が地球と共存することに集中し、準備をし、地球へのマナーそして行動を起こすその日を待つ。このようなお話を色々な事例を交え、わかりやすくお話しいただき、そのあとご自身の活動のスライドを見せていただきました。私たちも微力ながら今、自分が出来ることをしていかなければと、考えさせられました。有難うございました。

「定期総会」

総務部長の三崎さんより、参加者 39 名、委任状 79 名の合計 118 名の参加で総会が成立との報告がありました。(会員 171 名、69%の参加率)

春日会長よりご挨拶があり、今年度の重点目標についてお話がありました。

- 会員増員の取り組み
- 地方会員の組織化への取り組み
- ボラレンの気風を作りたい「人間と自然環境を仲立ちとしている」
- 季刊誌 (エゾマツ) に力を入れる
- ホームページ、メーリングリストを大切に活用する

来賓として参加いただいた道の自然保護課生物多様性保全グループ主査、黒田勝巳氏より私たちの運動への励ましのメッセージ、北海道の生物多様性に関する、保全条例が施行されたこと等をお話しいただきました。

自然ふれあい交流館の副館長、松井則彰氏より24年度の交流館の入館者数が前年度より若干減少したこと、行事への参加者アンケートの満足度が少し上昇したこと、「森の家」が老朽化等の理由で今年度は閉鎖されることをおはなしいただきました。お二方にお忙しいなかを来ていただきお話しいただいたことを、厚く御礼申し上げます。

その後、議長が選出（三輪礼二郎さん）され、次ページからの総会資料にのっとり、ご参加皆様の賛同をえて滞りなく終了させていただきました。

<会員の活動 コーナー>

札幌市民カレッジ主催 《自然観察シリーズ》の関連講座で

室野文男さん（事務局長）が「シダ植物の魅力」というテーマで講義と観察会を行う

6月11日、野幌森林公園、午前は「自然ふれあい交流館」で講義をされ、午後は公園で野外観察会が3時間をかけて行われた。定員は20名でしたが、実施日の前には定員で、締め切られたそうです。いつもの彼のシダ植物の説明からして、好評であったと思われます。わが会としてもとっても嬉しいことです。

5月28日（火）には、「開拓の村」、ボランティア会主催の<自然観察会>で講師をされ高い評価を得ていました。

1号議案 1. 平成24年度事業報告

月	行事名	実施月日	下見参加者	集合・解散場所	主・共催	参加者
4	平成24年度総会時研修会	14日(土) 13:30~15:00		札幌市東区民会館2F講義室		会員 34名
	春の花を見つけよう(野視)	26日(木) 10:00~12:30	25日(水) 13名	交流館集合・解散	共催	一般 57名 会員 13名
5	セイヨウオオマルハナバチ防除(野視)	7日(月) 10:00~12:30		開拓の村入口 エゾムラサキツツジ	主催	会員 7名
	春のありがとう観察会(野視)	13日(日) 10:00~14:30	12日(土) 12名	交流館集合・解散	共催	一般 39名 会員 11名
	恵庭公園観察会	20日(日) 10:00~12:00	19日(土) 6名	恵庭公園中央駐車場 集合・解散	主催	一般 8名 会員 7名
	三角山登山観察会	27日(日) 10:00~14:00	26日(土) 6名	緑花会館前登山口 集合・解散	主催	一般 17名 会員 8名
6	森の新緑観察会(野視)	3日(日) 10:00~12:30	2日(土) 11名	交流館集合・解散	共催	一般 74名 会員 13名
	北広島レクの森観察会	17日(日) 10:00~12:30	16日(土) 10名	レクの森入口駐車場 集合・解散	主催	大雨のため中止 一般 5名 会員 6名
7	北海道大学雨龍研究林研修会	6日(金) ~7日(土)		樺加内町政和 せいわ温泉「ルオン ト」	主催	会員 16名
	鶴川研修会	20日(金) ~21日(土)		むかわ町道の駅 四季館	主催	会員 11名
	特定外来生物 オオハンゴンソウの防除(野視)	22日(日) 10:00~12:30		交流館集合・解散	主催	会員12名、石狩森林3名、 記念館1名、一般15名
8	夏の森の観察会(野視)	9日(木) 10:15~13:30	8日(水) 16名	開拓の村集合・解散 記念塔(昼食)	共催	一般 59名 会員 15名
	北海道ボランティア・レンジャー 育成研修会	24日(金) ~26日(日)		野視森林公園 自然ふれあい交流館	共催	会員協力者 15名、受 講者15名 入会者7名
9	秋の花でにぎわう森を歩こう(野視)	9日(日) 10:00~14:30	8日(土) 15名	交流館集合・解散	共催	大雨のため中止、 一般 17名 会員 10名
	日帰りキノコ研修会	19日(水) 10:00~14:00		道民の森・月形町入 口(陶芸館前駐車 場)	主催	会員 13名
10	芸術の森周辺観察会	7日(日) 10:00~12:30	6日(土) 10名	芸術の森入口バス 停留所前 集合	主催	一般 10名 会員 9名
	秋の森の匂いをかごう(野視)	11日(木) 10:15~14:30	10日(水) 12名	開拓の村・集合解散 (交流館昼食)	共催	雨のためコース変更 一般 18名 会員 12名
11	晩秋の森観察会志文別コース(野視)	3日(土) 10:00~14:30	2日(金) 6名	交流館集合・解散	主催	一般 22名 会員 12名
	秋のありがとう観察会(野視)	11日(日) 10:00~12:30	10日(土) 14名	交流館集合・解散	共催	一般 57名 会員 19名
	西岡水源地自然観察会	23日(金) 10:00~12:30	22日(木) 7名	西岡公園管理事務 所前 集合・解散	主催	一般 9名 会員 14名
1	円山登山観察会	13日(日) 10:00~12:30	12日(土) 10名	円山登山口前 集合・解散	主催	一般 7名 会員 11名
2	冬の森の観察会(野視)	17日(日) 10:00~12:30	16日(土) 15名	交流館集合・解散	共催	一般 49名 会員 10名
3	森の中で春をさがそう(野視)	24日(日) 10:00~12:30	23日(土) 13名	交流館集合・解散	共催	一般 73名 会員 15名

※ 下見会 会員=193名 本番 一般参加者=564名 会員=219名 研修=74名 参加者総数=1050名

(2) 地方支部の活動報告

I. 小樽支部

北嶋 徹氏

NO	月日	行き先	計	ボラレン	補助	参加数	えぞまつ	担当	備考
1	24.5/7	オタモイー赤岩	35	5	3	27		梅原	
2	6/9	旭展望台	21	5	1	15		工藤	
3	7/21	目国内岳	15	2		13		北嶋	自家用乗合
4	8/25	塩谷丸山	47	4	4	39		北原	
5	9/15	名所巡り	20	4	2	14		北嶋	
6	10/20	天狗山	44	7	5	32		北原	納会
7	25.2/23	毛無山東斜面	23	4	1	18	林 東洋	北嶋	カンジキ
8	3/23	天狗山	27	6	3	18		工藤	カンジキ
計			232	37	19	176			

II. オホーツク支部

北野徳美氏

○オホーツク支部夏季研修会

参加者 13名

◆とき：6月23日(土)～24日(日)

◆ところ：「小清水原生花園」(小清水はなことりの宿ユースホテル)

◆日程 6月23日

・14:15～ トウフツ資料館見学

・16:30～18:00

*テーマ：「鳥がすむ森、すまぬ森 ー生き物が育む北の森づくり」

*講師：鈴木 悌司 東京農業大学教授

・18:00～ 懇親会

6月24日

・8:00～12:00

*小清水原生花園の植物観察

*トウフツ湖水鳥湿地センター見学

III. 十勝支部

○十勝支部活動状況について

IV. 道北研修 (準支部)

芦田 孝氏

◆「北海道大学雨竜研究林研修」

◆とき：7月6日(金)～7日(土)

◆日程 7月6日

*旧 JR 深名線第3雨竜川橋梁の研修

講師 第3雨竜川橋梁保存会会長 菊池 盛典氏

*幌加内町の産業について

幌加内町観光協会職員

幌加内町役場産業課商工観光係長

7月7日

*雨竜研究林庁舎でオリエンテーション

林長 吉田 俊也 氏

*フィールド研修

・湿地性アカエゾマツ

・研究林高地から望む朱鞠内湖を望む 等

V. 鶴川研修 (準支部)

◆とき：7月19日(金)～20日(土)

7月19日

*集合 13:00 むかわ町道の駅 四季の館

*海浜植物観察 *海辺・湿地の鳥の観察

7月20日

*テーマ「干潟を守ろう」 人工干潟内除草作業

*主催：ネイチャー研究会 in むかわ

*参加者：ネイチャー研究会 in むかわ会員・室蘭開発建設部
室蘭工業大学学生・ボラレン会員

(3) 研修会事業

(研修部)

①4月14日(土) 13:30～14:50 「総会時研修会」

札幌市東区民センター2F 講義室

参加者 34名

◇テーマ ボラレンオホーツク支部活動から・・・・・・・・

「指導林業家としての地域活動」

講師

副支部長 佐野 亮二氏

②7月6日(土)～7日(日)「道北・北大雨竜研修林 研修会」

③7月19日(金)～20日(土)「鶴川研修会」

④9月19日(木) 日帰り 「キノコ研修会」

(4) ①広報誌「エゾマツ」の発行

(広報部)

6月28日(木) エゾマツ夏季号 101号
10月25日(木) エゾマツ秋季号 102号
1月25日(木) エゾマツ冬季号 103号
3月25日(水) エゾマツ春季号 104号

②自然観察NOWの発行(共催の観察会に配布)

4月26日(木) No.1 (春日順雄)「ヤナギ」
5月13日(日) No.2 (五十嵐一夫)「花の形が決まる仕組み」
6月3日(日) No.3 (谷口勇五郎)「ドングリ・エゾハルゼミ」
8月9日(木) No.4 (田村允都)「トンボアラカト・この時期の観察情報」
9月9日(日) No.5 (土屋忠司)「ダンゴムシの生態」
10月11日(木) No.6 (佐藤清一)「赤トンボ・ココロギ」
11月11日(日) No.7 (小林英世)「ゼフィルス」の卵・ジュウザンミドリシジミ」
2月17日(日) No.8 (春日順雄)「雪の結晶は、天から送られた手紙」
3月24日(日) No.9 (佐藤清一)「江戸時代の鈴木牧之：北越雪譜にふれて」

(5) 観察会下見会を研修の場としての充実をはかるため「話題提供者」を設定した。

4月25日(水) 道場 優 「野鳥入門」
5月12日(土) 五十嵐一夫 「花の形が決まる仕組み」
5月19日(土) 小林英世 「トリカブト」、「ゼフィルス」11月10日(土)
6月2日(土) 室野文男 「シダ植物」
8月8日(水) 田村允都 「木の指標」
9月8日(土) 土屋忠司 「カンタン」
10月10日(水) 宮本健市 「昆虫」
10月6日(土) 成田伸一 「メタセコイア」
2月16日(土) 春日順雄 「雪の結晶は天から送られた手紙」
3月23日(土) 佐藤清一 「雪と人々の暮らし」

(6) 他団体への協力・派遣事業

①北海道環境道民会議

総会への参加 室野1名 各団体の環境団体の環境保全への取りくみが発表された。
※道民会議からのイベント等の情報連絡は当ボラレンのメーリングリストで行う。

②道立野幌森林公園管理運営協議会

清掃活動 春・5月25日(木) 「クリーンクリーン野幌森林公園」 3名参加
秋10月25日(木) 「クリーンクリーン野幌森林公園」 7名参加

③石狩振興局・北広島市主催の自然観察会への講師派遣

7月24日(下見)、7月31日 6名派遣
一般参加者 6名 関係機関 6名 ボラレン 6名

(7) 会議

- 第1回役員会議 5月6日(金) 18:30~20:30 札幌エルプラザ 2F 会議コーナー
第2回役員会議 7月22日(日) 14:00~16:00 野幌・自然ふれあい交流館 レクチャールーム
三役・部長会議 1月8日(火) 18:30~20:30 札幌エルプラザ 2F 会議コーナー
第3回役員会議 1月25日(金) 18:30~20:30 札幌エルプラザ 2F 会議コーナー
第4回役員会議 4月12日(金) 18:30~20:30 札幌エルプラザ 2F 会議コーナー

(8) 育成研修会の取り組み

- 6月3日(日) 新緑の森観察会終了後 育成研修会担当者協議(春日、室野、内山、松井)
7月22日(日) 第2回役員会議 (オオハンゴンソウ防除後自然ふれあい交流館) 14:00~16:00
7月27日(水) 18:30~20:30 育成研修会協力者会議 札幌エルプラザ2F 会議コーナー
8月24日(金)~26日(日) 育成研修会 野幌森林公園 自然ふれあい交流館
9月21日 18:30~ 育成研修会反省会 サッケンビル地下「ボレー」

反省点として

- ・育成研修会の会場が野幌森林公園に固定化しているので受講者の減少傾向にある。
- ・育成研修会計画・遂行については報告・連絡・相談を密に行う。

(9) 広報活動

- ①観察会チラシの作成・配布 2000枚
- ②自然ウォッチングガイドへ掲載依頼(主催観察会事業の広報)
- ③ホームページの更新・変更
- ④メーリングリストの普及、登録管理
- ⑤まんまる新聞への掲載依頼(野幌森林公園の主催事業)

(10) ML・HP(メーリングリスト・ホームページ)委員会を立ち上げた。

2. 平成24年度決算報告ならびに監査報告

平成24年度収支決算書(案)

平成24年4月1日～平成25年3月31日

収入額 743,925円

支出額 529,371円

差引 214,554円(次年度へ繰越)

収入の部

単位:円

項目	予算額	決算額	予算対比	摘要
前年度繰越金	271,459	271,459	0	
年会費	450,000	434,000	▲ 16,000	145名(144名×3000円・1名×2000円)
雑収入	38,541	38,466	▲ 75	雑入金等
合計	760,000	743,925	▲ 16,075	

支出の部

単位:円

項目	予算額	決算額	予算対比	摘要
総務部費	200,000	172,203	▲ 27,797	会費(役員会・支部)消耗品費(紙・フッペン)、運賃等
事務部費	100,000	65,606	▲ 34,394	運賃費、事務用品費等
研修部費	130,000	74,965	▲ 55,035	研修会費(講師料・交通費、育成研修会費等)
活動費	150,000	56,880	▲ 93,120	地方支部活動費補助、ボランティア活動費等
広報部費	150,000	129,717	▲ 20,283	会報エソマップ制作費、郵送料、ロッカー借り上料等
特別会計	30,000	30,000	0	特別会計へ繰り入れ
合計	760,000	529,371	▲ 230,629	

特別会計(特別預立金)

単位:円

前年度繰越金	増加額	減少額	本年末残高	摘要
381,312	30,094	0	411,406	一般会計より繰入30,000円・貯金利息94円

平成24年度財産目録

平成25年3月31日

単位:円

借方		貸方	
通常貯金	625,960	一般会計繰越金	214,554
		特別預立金	411,406
計	625,960	計	625,960

備品

救急医療セット1箱・聴診器5本・望遠鏡2台
双眼鏡15台・質量アイゼン5脚

監査報告書

私たちが監事は、会則第12条の5に基づき、平成24年4月1日から平成25年3月31日までの会計処理について、会計帳簿および証憑書類を精査確認した結果、適正なものと認めます。

平成25年4月12日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

監事 西 田 伸 一
監事 高 松 友 雄

(3) 観察会・研修会・調査活動

- ①観察会については別紙による。またサークル活動の観察会があれば随時実施する。
- ②研修会については別紙による。会員の要望と必要に応じ実施する。
- ③研修会、講演会の実施により、会員の資質の向上を図る。
- ④観察会、研修会の報告は担当者がメーリングリストで行う。

(4) 活動領域の広がり

特定外来生物の防除

- ①北海道のセイヨウオオマルハナバチの防除への参加 5月7日 野幌森林公園
開拓の村入口集合 10:00~12:30
- ②野幌森林公園のオオハングンソウ防除
7月28日(日) 10:00~12:30 野幌森林公園 自然ふれあい交流館 集合

(5) 北海道ボランティア・レンジャー育成研修会(共催)

- ①実施日:平成24年10月25日(金)~26日(日)
- ②育成研修会の修了者への入会を勧める。

(6) 他団体への協力

- ①観察会のガイド要請については、主催の目的などを把握して協力していく。
- ②各関係機関や団体が行なう自然環境保全に関わる行事や調査には参加していく。

(7) 広報誌「エゾマツ」の発行

- ①年4回(6月下旬、10月下旬、1月下旬、3月下旬)の発行
- ②誌面内容と体裁の充実に努力していく。
- ③共催自然観察会の一般参加者に「自然観察NOW」の配布 年9回

(8) 支部や地方会員の活動の活性化

- ①支部や地方会員の活動に参加する。
- ②各会員の思いや要望の発信を受け止めたり、広報誌による交流を活性化させる。
- ③メーリングリストによる情報発信による交流。

(9) PR活動

- ①ホームページによる観察会、育成研修会の情報を発信する。
- ②自然ウォッチングやエコボロ、まんまる新聞への情報の掲載
- ③チラシを作成し、札幌エルプラザ、北海道環境財団、札幌区民センター、江別市公民館、芸術の森、野幌森林公園内の自然ふれあい交流館、森林の家などにチラシを配布する。また、春先の観察会においても配布する。

2号議案

(1) 事業計画の方針

目標 「自然との共存、日常の実践から」

重点

- ① 会員の意見や社会の要請を受け止め、会の活動改善に生かす。
- ② 観察会と研修会の充実に努める。
- ③ ボラレン入会者の勧誘に努める。
- ④ 学ぶボラレンをめざす。
- ⑤ 全道的な視野に立つ。
- ⑥ ボラレン30周年の取り組み（2016年に30周年）

具現化の視点

- ① ボラレンの進む方向と活動領域の広がりを模索する。
- ② 会務のシステム的な遂行を試みる。
- ③ 育成研修会のボラレン担当部分の充実に努める。
- ④ ボラレン会員の勧誘に努める。
 - ※1, 様々な場面を通して育成研修会のPRに努める。
 - ・(例) 観察会の場で参加者へ育成研修会開催を知らせる。
知人などへ、口コミを通して育成研修会開催を知らせる
 - ※2, 育成研修会受講者への働きかけ
 - ・当日の入会勧誘
 - ・本人の了解を得て育成研修会受講者には、当年度を含めて2年間、主催観察会・共催観察会のお知らせ文書を発送する。
- ⑤ 観察会下見時の話題提供を通し会員同志の相互交流を図る。
- ⑥ 主催事業のPRに努める。
- ⑦ メーリングリストやホームページを有効に活用する。
- ⑧ ボラレン活動の全道的な活性化を目指す。
- ⑨ ボラレン30周年準備会を立ち上げる。(2016年に30周年を迎える)

(2) 会議

①定期総会 (平成26年度) 予定

平成26年4月19日(土) 札幌エルプラザ2F 環境研修室

②役員会議 予定

第1回役員会議	5月9日(木)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー
第2回役員会議	9月6日(金)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー
第3回役員会議	1月24日(金)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー
第4回役員会議	4月11日(金)	18:30~20:30	札幌エルプラザ	2F	会議コーナー

(10) ボラレン活動の全道的な活性化を目指す試み(平成25年度も継続)

1. 育成研修会受講者でボラレンに加入していない人への参加の働きかけを行いません。
2. 支部立ち上げの機運が出てきた時には、積極的に支援します。
3. 支部を代表して総会に出席する1名については、旅費を助成します。
 - (1) 最も経済的な交通機関を利用することとします。
 - (2) 上限を、1万円とします。
 - (3) 申込先は、事務局とします。

※3に記す事項は、ボラレンの会計規模を考慮し、各年度の提案事項とします。

実施期間は、平成25年4月20日～平成26年4月19日までとします。

2. 平成25年度 予算案

平成25年度予算(案)

単位:円

項目	予算額	前年度予算額	摘要
前年度繰越金	214,554	271,459	
年会費	420,000	450,000	会員140×3000円
雑収入	35,446	38,541	保険料、協力者礼金
合計	670,000	760,000	

支出の部

単位:円

項目	予算額	前年度予算額	摘要
総務部費	120,000	200,000	総会費、役員会会議費、振替手数料
事務局費	90,000	100,000	通信費、事務用品費
研修部費	130,000	130,000	研修会講師謝礼、交通費、育成研修会経費
活動費	150,000	150,000	地方支部活動費補助、研修会等助成、ボランティア保険掛金
広報部費	150,000	150,000	会報えぞまつ制作費、郵送費、取材経費
特別会計	30,000	30,000	特別積立金へ繰り入れ
合計	670,000	780,000	

春は遅かったが、北国の美女ともいえるシラネアオイに会えて

札幌市 上野 京子

まさに、山笑い 薫風吹きぬける中の山登りとはいえ、いつにない冷たい春に慣らされた身には、この日の20度超えは暑過ぎる位。

個人的には秋に予定している屋久島登山の足慣らし第一歩目という軽い気持ちでの参加でした。しかし、“北海道ボランティア・レンジャー協議会”の腕章をみつけると、これから何が始まるのだろうと興味津津。登山開始時、専門的な説明、例えば一房の花、雄花は花粉を散らす為上部へ、雌花は良い種子を作る為栄養分の摂り易い下部にあること、あるいはある樹木では陽光をすべての葉が受けられる様、重なることのない葉の付け方をしている等々、深くうなずいたり、植物独自のあり様に感心したりしていました。

が、一時間が過ぎ二時間近くになると、暑さと老体への疲労感で“早く山頂で腰をおろしたい”モードへ変わってゆくのでした。

残念だったこと、遅い春の性で、華やかに咲くヤマシャクヤク、シウリザクラ、良い香りを放つハクウンボク等がまだ蕾であったこと。嬉しかったこと、幼い頃からの憧れ、シラネアオイがここでは株を増やしているという、彼女らは雪を好み北側の斜面にも多く自生するという、酷寒に耐え美しく咲く北国の美女、私達そのものではないか。

そして、クマザサと云っていたのが実は九枚笹であると知ったこと、絶滅寸前とおぼしき小さき山野草が踏みつけられぬ様、盗掘されぬ様、道行く人の手によって小石で囲む様に守られていたこと等でした。

この日の「朝日新聞」に、アポイ岳を絶滅の危機にあるヒメチャマダラセセリをお花畑復活作業で救え、という記事を読みました。

登山を楽しむ人々のすぐそばで、レンジャーや研究者、ボランティアの方々の人知れずの活動や熱い思いがあることを知りました。

山に癒しを求める者として、今後共、彼らの意志に添える様な行動をと改めて心に誓ったのでした。

春の花を見つけよう 4月25日(木) 濱野由美子

曇り空の中、受付に行くと、参加者の多さにびっくり！ 100人以上とか……。

10人位のグループ分けで、私達は、案内人も含め、全員が女性で、自然の様子や仕組みを、写真やルーペ等で、解りやすく、丁寧に学ぶ事が出来ました。

交流館を出ると、直ぐに、ウグイスの声や、エゾアカガエルの合唱が聞こえ、調整池に行くと、水が少なく、枯れ草の上でも、オスがメスにラブコール。

途中の繁殖池でも、白っぽい帯状の、エゾサンショウウオの卵や、エゾアカガエルの寒天質に包まれた卵を、同時に見られ、側には、親達も居ましたが、寒さのせいから、動かずに、じっとしていたので、今年初めて、写真に納める事が出来ました。

今回の観察会で、今まで知らないことが、2つも有りました。

◎エゾユキウサギの糞が2種類

1種類は、ベタツとした、軟らかいウンチで、自分で食べてしまう。

2種類目は、繊維質が多く、丸い、コロコロしたウンチで、残る。

今年の冬、新雪の上を、うっすらと緑色に染めていたのは、噛みきった枝や茎から出た汁だろうと思い、足跡や、丸い糞と一緒に写真を撮りましたが、もしや！ウサギが食べた、軟らかウンチかも？と思い出すと、知ってからは、楽しくなりました。

◎野幌森林公園の殆どが、キタミフクジュソウである。

その違いも教わり、自宅の花を確認すると、花が1個、花びらも、萼より短めです。

今までは、北見にしか無いと思っていたのが、我が家でも見られたのに、逆に、道東の海岸草原～草地でもないのに、何故？ フクジュソウの存在が気になります。

公園内では、キタミフクジュソウが、丁度見頃で、通路の両側に沢山有りました。

天候にも恵まれ、野鳥の姿や声を聞きながらの観察会は、とても楽しく、頂いた資料の全種類を、殆ど見つけ、説明をして下さった、案内人に、感謝しております。

貴重な時間を、前日に下見までして下さり、有難うございました。

ミスター・野幌 「魔法のバック」に爆発の火を

札幌市 浅見 文貴

さて、この一枚は一体ナニを物語っているのでしょうか。よもやあの、エベレスト・マニア、1億6千万円もかけて登頂挑戦に成功した三浦雄一郎さんに触発されて山歩きに挑む姿ではないでしょうか。でも、山道をとぼついているこの映像の方には、それを彷彿させる迫力が、満ちて見えます。

世界で最初に日本が迎えた高齢社会、誰しも健康長寿を願うのが人情というものです。で、ご本人には大変失礼で、迷惑至極な話だが、手持ちのバカでかスーパーバックを見るムキは、野幌の森ではご法度の目下たけなわ山菜狩りに精だす風情と見るか。はたまた、炎天下の直射日光をものともせず、延命効果ネラう元気願望のおトーサンか。もっと言うなら日課の健康づくりをサボると、やってくる禁断症状に端を発するお呼び、お迎えにオソレおののくフラッシュバック特有の恐怖克服に強く抵抗する図か。ま、ナニはともあれ、6月は第2日曜日の雲ひとつない9日、紺ペキ空無限に広がる野幌は大自然でゲットした一枚だ。さわやかにして、なお熱い、久しぶりの夏日。例年より2週間、半月遅れの気象で、野幌の生態系に发育異常も。事実、白い花を咲かせるオオバナノエンレイソウの開花も遅れに遅れた。

「自然と対話する。これがなにより
の生き甲斐です。私の健康法もこれ
に尽きますね」。

後期高齢に手が届くようになった春日順雄さん。野幌の森を庭のように足繁く通うことが幸せを呼ぶという自然大好き人間。しかし、この孤独なひとり歩きに見える背後には沢山の自然愛好者が、この日も彼のガイドを期待して列をなしている。わかりやすい、上手だ、聞いてもすぐ応えがかえってくる。あたり前だ。ミスター・野幌こと春日さんは、きょうのこの日の「森の新緑観察会」を共催した一般社団法人・ボラレン（北海道ボランティア・レンジャー協議会）のボスであり、この組織が発行する季刊誌『エゾマツ』の巻頭常連執筆者。書く内容は学



ひとり行く野幌炎天下の林道“宝物のバック”は自然破壊への警鐘

術的にも評価されるだろう格調すこぶる高く、豊富な動植物についての専門知識を縦横に記述、そこから発する解説、トークは、もう学者の領域。とてもじゃないが、こういうデキブツをトップに頂くボラレン。その末席を汚している新米の私も、なんだか、気分高揚し、誇りに思う。

緑したたり、各種野鳥のラブソングが高鳴る林間の中、つい、つい春を探す観察会に参加できた至福に酔ってしまった。

ボラレンは、役員の多くが教員元職の巣だとう。春日さんも野幌の森に至近の小学校長を歴任し、リタイヤ後は、もっぱら自然保護一筋にして自然愛好家の増殖に馬力、一方で現下の自然破壊への乱世を憎しみつつ、執拗に自然保護を愚直に訴え続ける好漢。

さて、本稿のめざすところだが、あくまでもミスター野幌の左腕にぶらさがるスーパーバックにこだわりたい。どう見ても山歩きに買い物ぶくろはなじまない。もっとも冒頭のルール違反の例など、ミスターにすると、悪い冗談では済まされない。かと言って、アクセサリーでは、あまりにもダサ過ぎる。

そこで、ズバリ、ミスター・野幌に打診した。「ああ、これかい。魔法のバックだよ」。どうも言っている意味は、命の次に大事な知恵袋と理解した。なるほど、“春日野幌”がガイド中に、しきりとスーパーバックから取り出す自然解明の各種資料、ムロン実物引き伸ばした大映像と目の小さな生命（動植物）と重ね合わせる、細かい配慮。自然と対話の道具だては、やっぱり自然の人間が先んじてやらなければの思いか。「誰かがやらなければ君がやれ」。

ズタ袋まがいのバカでかバックの正体は、なんと世界3大の都市公園にランクされている野幌大自然公園を守る積年蒐集の宝物がいっぱい詰まったプラチナ福袋。定番になったイベント開催ごとに行われ、好評博している会長あいさつの見事な植物実演（現物、あるいは作品を提示）も、実はこのバックがタネ明かしの素と知ればしっかりナットクだ。

ちなみに、折から荒れ狂う“アベクロのミス”が原因の金融バクチ相場に増して、今年の“野幌ごよみ”も2週間遅れの乱れだ。そんな中で、ブレず確かな頼り甲斐あるのが、我がボラレンの“自然保護博士”。出戻りアベは、自然破壊の原発の再稼働に爆走。アベが芸術大家の故・岡本太郎と似て非なる“爆発”なる用語をミスのアベクロに連動させようと訴えたが、とんでもはっぶん。

ホントウの爆発とは、地球の自然を守る、オバマ大統領が、6月19日、ベルリンでの演説で表明した戦略核弾頭のさらなる削減提案に代表される人類のあすを保証するメッセージ。一步前進か、と思いきやロシアの副大統領は即座に批判声明。北方四島を占拠しておきながらこのごまだ。

かくてミスター・野幌の「魔法のバック」にはホンモノが脈打ち、爆発の火付け役を担う使命に超優越感。ためしにあなたも、君もぜひ、春日節へのおつきあい、おすすめします。

I. 「鳥」の“不思議”を知る

他の動物との決定的な違いは、「飛ぶ」こと。

鳥は1億数千万年も昔から空を“飛ぶしくみ”の基本を備えていた。

(1) 「飛ぶ」メカニズム

① 「飛ぶ」ということ

- ・まっすぐ（最短距離を） ・遠くまで（長距離を） ・どこまでも（自由自在に）
- ・高くまで（飛行高度） ・速く

② 「飛ぶ」ことのメリット

- ・行動範囲の拡大
- ・餌さがし（食物獲得）が有利
- ・危険からの逃避
- ・季節的移動が可能

⇒つまり、空を飛ぶ鳥は地上で生活し移動する（這う・歩く・跳ぶ・走る）動物よりも「飛ぶ」方が生活上で有利で便利である。

③ 「飛ぶ」ことのデメリット

空を飛ぶためには、その生活上の便利さ有益性と引き換えに、相当の“マイナス条件”と取引をしなければならない。

- ・飛ぶためには、少しでも身体を軽くする必要がある。→身体の形、構造や機能を進化させなければならない。
- ・飛ぶことはとてもエネルギーがいる。→絶えず食物を補給しなければならない。
- ・いつどんな状況でも瞬間に飛び立つことができるように、“常に高い体温”を保つ必要がある。→絶えず食物を補給し続ける必要がある。

※そこで、「飛びことを止めてしまった鳥」もある

（理由）・空を飛ばなくても生活していける。

- ・飛ぶことは、大変なエネルギーを使う →エネルギーの消耗の軽減。
- ・食物が得やすい。 ・敵の回避ができる。 ・体重を重くしてもいい。

（例）ペンギン（早く泳ぐ・潜ることに便利な体の形に進化した）

ダチョウ（早く走る能力を進化させた）

ヤンバルクイナ（大きい肉食動物の危険ない島で進化）など。

④ 「飛ぶ」ためのしくみ (1)

- ・身体の形 →飛びやすく流線形 ⇒空気の抵抗を少なくする。
- ・胸の筋力（大胸筋と小胸筋）→“翼”を動かす強力なエンジン
- ・肺臓と心臓 →たくさんの酸素を送る。
- ・排泄器官 →すぐ老廃物を処理して体外に捨てる。尿と糞を同時に排泄する。
- ・体重の軽量化 →短い腸管。早い排泄（糞尿の同時の排泄）。産卵による“子育て”。
→歯の退化（頭部を重くしている分の軽くする）など。
- ・腸 →身体を軽くしようと、食物をすぐ体外へ出すために腸は短く、大腸はない。
- ・気嚢（きのう）→5対の空気の袋。吸い込んだ空気をここに貯めこみ、これを絶え間なく、円滑に「肺臓」に送り込む役割をする。
- ・羽毛 →軽く。柔らかく。丈夫。身体を外傷から護る。
→保温と放熱に高い効果(防寒能力) ⇒「飛ぶ」ことに大いに貢献
- ・翼 →人の手に相当する前肢が飛ぶための「翼」に進化した ⇒「翼」の優秀な機能

④「飛ぶ」ためのしくみ(2)

- ・骨格 → 激しい運動を伴うので、丈夫な骨と骨組み。軽くて丈夫であること。肢骨(手足の骨)は中が中空である。骨の内部は”支柱“で支えられている。
胸に「竜骨突起」と「烏喙骨(うかんこつ)」という鳥独自の骨を持つ。
※「竜骨突起」とは：翼をはばたくのに必要なエンジン相当する「大胸筋」と「小胸筋」を保定するもの。
※「烏喙骨」とは：激しくはばたく翼をしっかりと胴体の骨に保定するための太くて丈夫な骨のこと。
- ・巨大な眼窩(がなか)(目のくぼみ)
→ 高速で空を行く鳥は、優れた視力で物を識別し、それへの対応を図る。
視力は、人間の視力の5~7倍
- ・眼 → 広範囲を見ることができる。
- ・色の色覚 → 人間と同じ。
- ・歯 → より有利に飛ぶために、重たい「歯」を捨てた ⇒ 「砂肝」に進化
- ・嘴 → 飛ぶための進化として、哺乳動物の口と手の役割の「嘴」が誕生した。
⇒ 「嘴」の多くの用途と、種による「嘴」の多様化
- ・精密な神経系
- ・小脳の発達 → 反射と運動の機能
- ・音声コミュニケーション能力 → 「さえずり」と「地鳴き」。「ドラミング」など。
- ・安全か危険の優れた判断と対応力
- ・優れた聴覚 → 複雑な鳴き声による音声コミュニケーションの発達。
- ・方向探知とナビゲーションの機能を持つ(長距離を季節的に移動する場合)

(2)「渡り」の不思議

①「渡り」とは？

季節の変化として繁殖地と越冬地を年に一往復すること。

②いろいろな「渡り」： 夏鳥・冬鳥・旅鳥・留鳥・漂鳥・迷鳥。 とは？

③渡り鳥はなぜ「渡り」をするか？

→ 長い地球の歴史(鳥類の歴史)のなかで、何回かの氷河期と間氷期が繰り返された時にその度に繁殖地が移動したが、その繰り返しが“本能”として記憶された
帰帰願望が毎回の季節移動となったといわれる。

④「渡り」の際、なぜ方角がわかるか？ → 主な学者の諸学説

- ・太陽説：太陽の位置で方角を知る
- ・星空説：星の位置で方角を知る
- ・視覚説：地形を見ながら方角を知る
- ・地磁気感応説：地球の磁気を感知して方角を知る

(参考文献)

- ・『図説日本の野鳥』京極徹編(河出書房新社)
- ・『図解雑学鳥のおもしろ行動学』柴田敏隆(ナツメ社)

★ 我々は何気なく鳥の声を聞き、鳥の姿を探し、そして鳥を見つけて、その鳥の名前を知ると、なにか“野鳥を知った”ような気になっている。でも、本当の野鳥のすばらしさを知るためには、鳥の「不思議」を知って、よく観察することだと思ふのである。

寄生とは、寄生する生物が寄生される生物から栄養などを持続的に、また一方的に略奪して生活することをいう。

寄生される側を「宿主」または「寄主」という。

人間でいえば「居候」や「大人になっても親元を離れられない子供」も一種の寄生かもしれない????。英語ではパラサイトやパラサイト シングルという。

寄生の定義というものがある。以下の1~4を満たすものを寄生という。

- 1 寄生する生物が宿主の栄養を略奪する。
- 2 寄生する生物が宿主の体内か身体表面、または近くにいる。
- 3 宿主は寄生する生物により不利益を被る。
- 4 1・2・3の状態が一定期間続く。

寄生生物は実に多く、動物、植物、昆虫、菌類などさまざまである。

たとえば、人間でいえばマダニ（外部寄生）・シラミ（同）・カイチュウ（内部寄生）・サナダムシ（同）・マラリア（細胞内寄生）などがあり、一時期サナダムシはダイエットに利用されて人の腸内で10mにもなるという。

蚊や虻なども吸血するが定義の4を満たさないため寄生とはいわない。

植物ではネナシカズラ・ヤドリギ（半寄生植物）が知られる。

ツチハンミョウ（土斑猫・地胆）

昆虫にも多くの寄生種がいる。今回は「ツチハンミョウ」について調べてみた。

コウチュウ目（鞘翅目）・ゴミムシダマシ上科・ツチハンミョウ科で英名「Blister beetle」一部の地方では「アリノオヤジ」と呼ばれている。

ハナバチ類の巣に寄生する。成虫は草食である。空を飛ぶことができない。

石狩低地帯で見られるツチハンミョウは「マルクビツチハンミョウ」以下マルクビ「ムラサキオオツチハンミョウ」以下ムラサキ「メノコツチハンミョウ」以下メノコであり「マルクビ」と「ムラサキ」は春に出現し「メノコ」は秋に出現する。

雄と雌では雄のほうが小さくて触角の一部がコブのように肥大している。

どの種も全身が紺色で金属光沢があり腹部が異常に大きく翅から大きくはみだしている。動きが鈍く襲われると死んだふりをして脚の関節から黄色い液体を出す。

黄色の液体は「カンタリジン」という毒の成分で、子供などの軟らかい皮膚に付着すると水膨れ（水泡性皮膚炎）となる。観察会などでも良く見かけてきれいなのでつかみたくなるが注意が必要である。英名のプリスターも水膨れの意味である。

以前、死んで乾燥したツチハンミョウを見つけ近くのクロヤマアリの巣の出入り口の近くに置いて観察したが無視されたことがある、アリも毒があるのを知っているのだろうか？

体内に入ると猛毒で、昔は忍者が使用したり、中国では暗殺用に用いられたという文献もある。トリカブトの毒も猛毒で知られるが「毒もさじ加減」ということばどおり薬に利用されている、「カンタリジン」もイボ取り、膿出し、利尿剤、神経痛やリュウマチなどの疼痛緩和剤の漢方薬として利用されている。

ツチハンミョウの生活史はファーブルの昆虫記で紹介されていておなじみである。

「マルクビ」は春に出現し地中に数回に分けて一か所に4000～8000個の卵を産む。合計35000個という記録もあり、お腹が大きいのがうなずける。

卵からふ化した1齢幼虫（3爪幼虫相）が、まずすることは植物の花に登りハナバチが訪れるのを待ち構えていて、ハナバチの毛に咬みつき乗り移ることである。

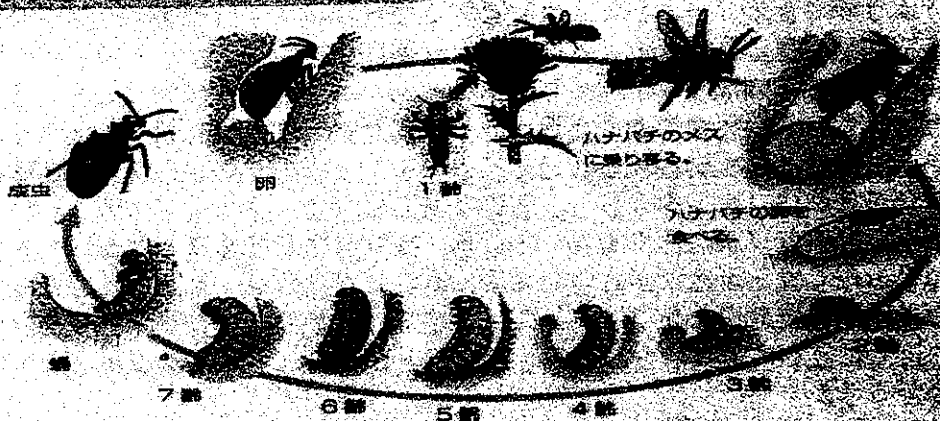
テレビで生活史が紹介されていたことがあり、3爪幼虫が自身を花粉に見せかける動作を一度見たいと思っていたら、野幌森林公園のチシマアザミの花の上で観察することができた。昆虫の翅音がすると無数にいた3爪幼虫が一斉に立ちあがり花粉のように見えるのである。

どの昆虫にも乗り移るがハナバチの、それも雌に乗り移れなかった個体や他の昆虫に乗り移った個体は、そこで生涯が終わる。巣に運ばれる個体が非常に少なく、そのため卵を小さく産卵数を多くしている。（小卵多産型）

運よくハナバチの雌に乗り移った個体は、お腹にすばやく移動し、巣に運ばれて、ハナバチが産卵する瞬間に卵に乗り移り、それを餌として成長する。

（1齢幼虫（3爪幼虫）を人為的に卵に付けても卵食が誘発されず死んでしまう。ハナバチに乗り移り運ばれる過程がないとだめなのである。）

卵を食べ終わるとハナバチの幼虫の餌や蜜を食べて脱皮しながら2齢（第1幼虫相）～3齢（同）～4齢（同）～5齢（同）～6齢（疑蛹相・夏眠状態に入り摂食しない。以降、成虫になるまで摂食しない。）～7齢（第2幼虫相）～蛹（蛹相）～成虫と手の込んだ（過変態）生活史を送る。



寄生昆虫（パラサイト）Ⅱ

北海道ボランティア レンジャー協議会 宮本 健市

寄生バチ（ヒメコバチ科・コマユバチ科）

野山を散策していると植物の葉に絵にも字にも見える模様を見かけることがある。子供のころは絵書き虫とか字書き虫と呼んでいた。

名前に虫とつくように昆虫の仕業である。ハエの仲間のニッポンキクハモグリバエやバラハモグリバエの幼虫が葉と葉の間に潜り、葉緑素を食べながら進んだ食痕である。ハエの成虫は食草の葉の上に産卵し、ふ化した幼虫（うじ虫）は、3齢になると葉と葉の間に潜り葉緑素を食べながら育つ寄生昆虫である。

潜って間もない食痕は細く、脱出が近い食痕は葉緑素を食べ大きく育つので太い。食痕が不規則な模様になるのには訳がある。

ハモグリバエの幼虫（うじ虫）わずか数mmに卵を産みつけて寄生する寄生バチの仲間ヒメコバチ科・コマユバチ科がいる。この科は、種類が膨大で区分がされていない種もあり観察すると新種発見があるかもしれない。

成虫が寄生産卵するときは葉についている食痕をみつけ、視覚と幼虫の食べている音、聴覚をたよりに幼虫の食痕をたどって追跡し幼虫（うじ虫）に産卵する。

寄生された幼虫は身体に卵を産みつけられるが、死ぬことはなくハチの幼虫が育つまで生きる。捕食寄生とか飼い殺し寄生という。一時期「北斗の拳」という漫画が流行ったが「おまえはもう死んでいる」状態である。寄生生物に、さらに寄生する生物を重複寄生生物という。

ハモグリバエは迷路のような食痕をつくり追跡をかわすのである。コバチは追跡中、交差した痕にさしかかるとどちらに進んで良いか解らなくなり追跡をあきらめるそうである。

食痕が複雑で終盤が太く最終点で丸く部屋のようになり黒い点があるものは、寄生されることなく蛹になれたものである。

途中で食痕が終わり部屋がないものは寄生されたものである。

ハモグリバエの幼虫は、いかに複雑な模様を書いて逃げるかが自分の子孫を残す上で重要なことなのである。



北大武山(3,090m)Beidawu shan 小林英世

北大武山は台湾五嶽（玉山、雪山、南湖大山、秀姑巒山、北大武山）の一つで、パイワン族、ルカイ族の聖山。中国の道教の聖地である5つの山の総称。五名山とも呼ばれる。陰陽五行説に基づき、木行=東、火行=南、土行=中、金行=西、水行=北の各方位に位置する、5つの山が聖山とされる。神話によると万物の元となった盤古という神が死んだとき、その五体が五岳になったと言われている。この五岳を象徴図形にしたものが五岳真形図（「五嶽真形圖」）である。

北大武岳は臺灣中央山脈にあり、台湾五嶽では最も南に位置し、高雄と屏東の間に広がる高屏平野の東のはずれからいきなり立ち上がる。標高は、五嶽の中では一番低いが、長い樹林帯を歩き、稜線～頂上に出ると東西南の3方向に海が見える。石楠花の山。大武山は先祖の魂が宿る場所とされており、聖山として崇拜されている。高く聳える北大武山は険しい断崖絶壁が特徴で、地理学上は地壘山脈に属し、原始的な自然環境に恵まれているため、多くの動植物にとって恰好の棲家となっている。特筆すべきは植物林相で、麓から稜線近くの大武祠まで高度に従い変化し、熱帯広葉樹林から始まり、寒帯性針葉樹林に変化していく「原始林帯」は、台湾では希少かつ最大である。

5月6日ゴールデンウィークも終わろうとしている日、昨年から計画を進めていて参加希望のメンバーが新千歳空港の松尾ジンギスカンに集合、久しぶりの玉山のメンバー、労山のメンバー、初めて顔合わすメンバー、ここでまず団結式。釧路支社の担当者がチケット持参で来て一緒に乾杯、結構盛り上がる！チャイナエアライン131便にて一路台湾桃園空港を目指す。4時間少々のフライト、時差1時間の台湾に6時過ぎに到着。張先生、林さんの出迎えを受け、空港と新幹線駅を結ぶバスに乗り、桃園新幹線駅に向かう。新幹線を待つ間にキヨスクではないセブンイレブンにて車内で飲むビール等を購入。高雄行の新幹線に乗車、快適な台湾新幹線を体験、売り子さんが来たのでまた台湾ビールを買い込み、車内を楽しむ。1時間半程で高雄に到着、地下鉄に乗り換え本日宿泊の翰品大飯店に向かう。

5月7日出迎えのワゴン車2台に分乗し、一路北大武岳の登山口を目指す。ヤシと台湾バナナの農園を抜け最終のコンビニのある街のセブンイレブンに寄りレーション、飲み物の買い込み、用便を済ませ、佳平の泰武分駐所（警察）に寄り計画書を提出し、パイワン族の部落のゲートを潜り、ジグザグの細い道を登山口へと向かう。現在の登山口は本来の登山口が途中で崩落したため、1時間半程度下にある第2登山口1150mからの登山となる。台湾のサルとバナナの出迎えがあり、準備を整え、すぐ脇の登山道へ

ろし休息をさせてもらう。雲の晴れ間から北大武岳が見える。ここから稜線上を5回アップダウン繰り返して頂上となる。これも結構きつい。山荘を出て6時間20分程で3090mの北大武岳頂上到着。海拔3090mから台湾海峡、バシー海峡、太平洋を同時に見渡すことができるとのふれこみだったが、雲海で海は見えじまい。ガイドの林さんお勧めのジャンプポーズで皆記念写真、JR山岳部の隊旗を掲げての記念写真を撮り、50分休憩し下山開始。所々に咲く石楠花の花を入れて北大武岳の写真を撮りながら下山をする。祠の所で休憩、南国の日差しはきつくすぐに日焼けになる。金翼白眉と言う鳥が出迎えてくれる。ここからまた来た道をひたすら降り、また水源地でお茶会、長い行程の中唯一の楽しみである。I氏より旭川のかりんとうを貰いお茶請けにする。長い下りを終え6時少し前に山荘に到着。疲れている隊員にコックさんよりお汁粉みたいな豆の汁を貰い一同感激、疲れた体にしみいる美味しさで、体が癒される。夕日が綺麗と言うので絶佳観星所まで行こうと思いが向かうが、雲海の中にいち早く夕日が沈んでしまうので、途中で写真を撮り山荘に戻る。夕食まで例により登頂を記念し、残り少ないウイスキーで乾杯。疲労回復を兼ねてか朝鮮人参のスープが夕食に出る。酒の肴はネギを挟んだカラスミでこれも美味、お酒が進む。夕食を終え焚き火にあたり、今日も早めの就寝。

5月9日今日も3時半起床、下山後の時間の関係で5時発、絶佳観星所では雲海が素晴らしく、遠く玉山を見る事ができ暫く景色を堪能したり、写真撮影に興じる。来た時の一番きつい登りを今度は降る。登山初心者のT氏のサポートを兼ね後ろから補助、何回か張先生が滑落しちょっと心配、Oさんが傷の手当てとかをしている。T氏がかなり疲れているため、ゆっくりのペースなので道端の植物観察を楽しむことができる。来た時に見えなかった崩落箇所も下まで見とせうせる。遠くに滝も見える。景色をゆっくり堪能することができた。8時20分登山口着、地元の登山客が笑顔で挨拶してくれる。発動機付きの耕運機みたいな車両が停まっていた。なんとか車道を通ってここまで来られるらしい。しかし我々は歩きで、第2登山口を目指さなくてはならない。1時間程でワゴン車の待つ登山口に到着。コココーラの接待を受ける。下山し来るときに寄ったコンビニでビールやら食べ物やらを買い込み店先のテーブルにて休息、南国の日差しの下で飲むビールは最高！高雄の街の台湾料理の店に汚い汗臭い身で立ち寄り昼食。ビールと紹興酒で安着祝い台湾料理を楽しむ。新幹線で一路台北市に向かう。今日のホテルは台北駅に隣接する天成大飯店（コスモスホテル）、なかなか立派なホテルである。汗をシャワーで落とし、6時よりホテルのレストラン翠庭（個室）で張先生、林さんを囲み夕食懇親会、懇親会後はホテルの近くにある登山道具店廻りで、それぞれ記念品やらお土産

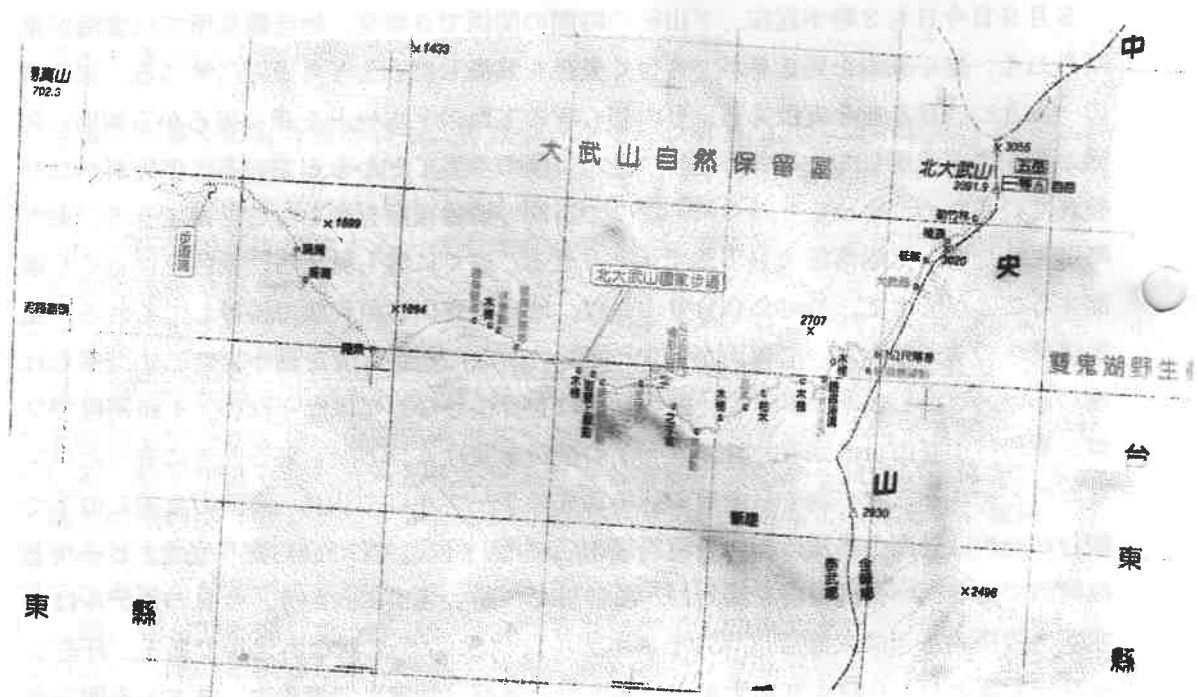
産を買い各部屋に戻る。私の部屋にはJRのメンバー来ていて二次会となる。

5月10日は労山メンバーで十分と九份の観光、台北の喫茶店やらデパ地下の買い物、小龍包の夕食と台北の最後の1日を楽しむ。5月11日CI130便にて一路帰路に着く。

5月7日 8:00ホテル発→9:50~10:05第2登山口→10:33休憩→11:35~12:20登山口→13:25~40(1750m)→17:30檜谷山荘

5月8日 3:30起床→5:05檜谷山荘発→6:40紅檜巨木→7:30~50水源池→9:00~15頂上1.5km手前→10:00~20大武祠→11:30~12:20頂上→13:37~50大武祠→14:37~501.5km手前→15:25~55→17:50檜谷山荘

5月9日 3:30起床→5:05発→5:25~35絶佳觀星所→8:20~30登山口→9:26第2登山口



エゾイラクサのこと

苫小牧市 谷口勇五郎

今年のように、雪が多く、寒さが強いと、春が待ち遠しいですね。雪が溶け出し、フキノトウの味は春の訪れを感じます。まもなく、ギョウジャニンニクが採れます。ニンニク臭があるもののビタミンA・Cが豊富と言います。5月になると、ユキザサ（アズキナ）も採れるようになります。これは林の中に普通にあり、くせがなく旨みがあり、ビタミンCも豊富に含まれ、最も手頃なよい山菜と思います。



エゾイラクサの葉

その頃、エゾイラクサも生え出します。林縁などどこにでも生えているものの、知名度が低く、味もいまいちなので、余り採る人がいません。素手で触ると、刺毛がささり、チクチク痛がゆい（原因は蟻酸）のです。軍手をはき、食べごろは若い草（高さ10cmぐらい）が、生長したものは、上の方を摘み取るのです。ゆでると、刺毛の蟻酸はなくなり、あくも少なく、緑色にできあがります。味は少しばさつき、ユキザサには及びません。天ぷらではまずまずの味。

イラクサの仲間に、葉は対生のアオミズ、互生のウワバミソウ（東北地方では最も人気）・ヤマトキホコリというものも山菜という。これらは刺毛がなく、柔らかく、くせやあくもなく、さっぱりしているそうです。道南や本州に生えているミヤマイラクサは刺毛があるものの、東北地方では代表的な山菜という。イラクサの仲間は、この辺では、エゾイラクサ・ムカゴイラクサや山菜ではないがクサコアカソなどが普通に見られます。山菜取りは、必要量だけ採り、新鮮な内に食べ、道迷い・転落事故・クマ・毒草などに注意し楽しいものにして欲しいと思います。

アイヌの人達はオヒョウやシナノキの繊維を利用していたのですが、エゾイラクサは秋に枯れ茎を刈り、繊維を取って糸や紐を作ったと言います。本州方面では、私の田舎でも、イラクサ科のカラムシ（有史以前から栽培：今は野生化）を栽培し、茎の皮をはぎ、表面のごわごわした部分を刃のない金具でそぎ落とし、内側の繊維を取り出し紐などに利用していました。

チョウ類の食草は割合狭い（1～数種）ものですが、エゾイラクサを食草にするものには、タテハチョウ科のサカハチチョウ・アカマダラ・アカタテハ・コヒオドシ・クジャクチョウなどがいます。ポロト湖畔のトドマツ植林地そばで真っ黒い毛虫（クジャクチョウの幼虫）がエゾイラクサを食べていました。

エゾイラクサは光合成により自分の体を作り、並の山菜として、昔は繊維を供給し、チョウの餌さとして、根を張り周りの土壌の流出を防ぎ、枯れては虫や菌類の栄養となり、そして土壌を作ります。

天狗山周辺・雪山歩きの自然観察会

H25. 3月23日(土) 天候:晴れ時々雪

冬の風景に逆戻りの中、ボラレン6人、補助3人、一般参加18人、計27人でスノーシューやカンジキを履き小樽天狗山ロープウェイ山頂を9時30分に出発、シラカバ、ダケカンバの多い林の中で北嶋支部長より180~150万年前の天狗山(532m)の誕生、形成過程での地質・地形の説明がありました。

その後、天狗平を通る道すがらエゾシカ、キタキツネ、エゾノウサギ等小動物の足跡を観察。北原武先生より北海道4樹種であるナラ、シナ、カバ、カエデの話や採取した冬芽を手にとって見て・嗅ぐ・かじって・するともっと判りやすいよ・・・と。

昼頃、小樽自然の村の建物を一部解放して頂き昼食を取りながら北原、工藤先生から「天狗山周辺の自然との関わり」のお話がありました。

午後1時20分ごろカラマツ公園にて解散、あらためて有意義な日々を感じた次第です。

特にミズナラに関しては興味があります。私は、船舶・港運関係に従事していた関係でナラの木は、大正期を始めとし昭和10年代、戦後の昭和28年代以降にインチ材(ミズナラ)やフリッチ材(セン)として小樽港から商船三井・マースクライン船社の定期船で最終地ハンブルグへ運ばれ、欧州一円に高級家具材として出荷されました。当時、道産のナラ材は輸出産業の花形として大量伐採されましたが、今長い年月を経て木の生長を考えれば、あらためて複雑な悲しい思いがいたします。

以上

小樽支部 石田 俊一

円山を見ながら自然の村へ



この木は何・・・?



モミ属・トウヒ属のお話



十勝研修（ケショウヤナギを見よう）に参加して

6月1日、2日

十勝支部 長谷川 俊治

活動をはじめてまだ日の浅い十勝支部に、はじめて宿泊を伴う研修会を実施することになりました。テーマは「ケショウヤナギ」。私は正直、ヤナギですか？と思いました。ヤナギは、興味もないせいかどれも同じに見えてしまいます。それでも、今回取り上げるケショウヤナギは、氷河期からの生き残りで名前の由来にもなっている若枝が薄化粧をしたように白いという大きな特長があるということでした。それならばと、前年より小野寺支部長と観察場所や宿泊場所等の準備を進めて、当日を迎えました。

1日目、集合場所の児童会館も少し前から改修工事に入っていて、下の駐車場で集合でした。このあたりも迎える側として配慮が足りなかったと反省しております。集合後、小野寺支部長の提案で、2日目に予定していた野草園での観察を初日に行い、それから移動して岩内自然の村へ向かうことにしました。

野草園は私も何度も訪れているのですが、皆さんの熱心さに、ただ感心しているだけの状態でした。同じ観察するにしても、より細かく分類してようやく同定するあたりは、大変勉強になりました。私のように漫然と見ているだけでは、だめなんだなあ、つくづく思いました。

帯広の野草園は、その面積の割には数多くの種類の植物を観察することができます。そのため一般の方にも、より自然に親しんでもらおうと名札を設置してあります。私もつい、自分の目ではなく、名札だよりになってしまっているようでした。この名札ですが、いろんな種類が混むでいるところにポツンとひとつだけある場合があります。管理棟の掲示板では写真入りでよくわかるようになってはいるのですが、このあたりにボラレンの働く場があるのかもしれないと、感じたりもしました。

会員の皆さんが、充分観察を堪能された後、宿泊場所へ移動となりました。岩内自然の村は、その日が開村日で、すでにバーベキューをして楽しんでいる親子連れがいましたが、その日バンガローに泊まるのは我がボラレン一行だけとの事でした。それもそのはず、岩内自然の村は、帯広市のはずれで山の近くに位置しているので、ここでのキャンプをするのはまだ早いようです。管理人によると、6月下旬から少しずつ宿泊も混むとの事でした。

そんな夜も、女性会員らが腕をふるって作った豚汁で温まりながら、自然観察に限らず、健康のこと、昔のこのあたりこと、ファイターズのことなど、様々な話に盛り上がり、懇親を深めることができました。

2日目、朝食の後、いよいよケシヨウヤナギ群生地への移動となりました。最初の場所は、戸蔭別川のそばの河岸です。ありました、若枝に白く粉がついています。指でこすると白い粉もとれてしまいます。これが名前の由来の化粧、おしろいです。河岸には他にもいくつかの種類が生育しています。よく見ると種類によって、その葉の形や樹皮の様子が違います。ケシヨウヤナギを見分けるには、若枝の白ばかり最初は見えていたのですが、よく見ると成木の幹の樹肌の深い彫りが他のヤナギと比べても堂々としていることに気がつきました。堂々と男らしい成木の若枝に女性らしいおしろいの白。なんという組み合わせでしょう。

私は、ケシヨウヤナギのそんな特長を自分の目で見て感じることができました。

今回、会員の皆さんからは、多くのことを学べたように思います。そのひとつに、やはり自分の得意分野を持つことは、大切だと思いました。

「これだったら、〇〇さんだ」とか会員同士は互いの得意がわかっているから、何度もそんな会話を耳にしました。

私も自然観察を長く続けられる得意分野を見つけようと思いました。

最後に、当日は本部の方々に大変お世話になりました。あらためて、お礼申し上げます。ありがとうございました。

参加者：

春日会長、田村さん、伊藤さん、三崎さん、室野さん、小栗さん、熊野さん、内山さん、大表さん

十勝支部より：

小野寺支部長、川内さん、長谷川

ケシヨウヤナギは挿し木や接ぎ木が出来ません。移植も難しいと云います。繁殖力旺盛で簡単に根付くヤナギの仲間には似合いません。ヤナギのほとんどが虫媒花なのにケシヨウヤナギは風媒花です。

若木の木肌は化粧したように白く、晩秋から早春にかけては美しく紅色になるといいます。お化粧したみたいだからケシヨウヤナギの名を戴いたそうです。北海道の日高・十勝と長野県の梓川上流に隔離分布しています。

そんなケシヨウヤナギが見たい。十勝会員の案内で戸蔭別川へ。日高の雪解け水を集め、音高く流れ下る戸蔭別川とその周辺の景色は、自然が雄大で美しく感動しました。その河畔にケシヨウヤナギは根を張っていました。「これがケシヨウヤナギです。」の説明にみんなが駆け寄りました。若い枝の白い粉を吹く白さを観察。季節的に枝の紅色は観察できず。何種類かのヤナギが混在していました。「ヤナギは種類が多くて見分けるのに大変。」と云いながらも、いい観察会風景が展開しました。

私の場合は、ケシヨウヤナギに出会えた嬉しさと共に、今までケシヨウ（化粧）から描いていたイメージとの違いにたじろいでしまいました。木の肌はひび割れし、たくましく、自然の猛威に耐えてきた強さを感じました。

一日目の野草園では、オオバナノエンレイソウの花弁の大きさにビックリ。札幌では見られない大きさと美しさでした。植物名を記した立て札が立っていて観察者に気配りの出来たいいところでした。宿泊地へ出発のために急かされるほどじっくり観察・研修を深めました。

十勝の野に見られるオオバナノエンレイソウはどれも大きく札幌のものとは別物という感じを受けました。家に帰って調べたら「花の自然史」（北海道大学図書刊行会）に次のような記述がありました。要旨は次の通り。「開花前のオオバナノエンレイソウの花に袋をかけて自家和合性の有無を調べた。その結果、道南・道央・道北地方は種子が結実し、自家和合性が確かめられた。しかし、襟裳岬をはさんだ日高・道東地方の集団では種子はまったく出来なかった。人の手で自家受粉をしても種子は出来なかった。」

十勝の野で見た大きな花弁をつけたオオバナノエンレイソウは、他家受粉のみで種子を結実するものだったのです。コストをかけて大きな花弁をつけ虫を誘うという「命をつなぐ営み」と、考えられます。

宿泊は岩内自然の村バンガロー。宿泊はボラレン一行のみ。クマよけのサイレンが鳴り響く自然に恵まれたところです。夕食は、駅弁と自炊の豚汁。懇親会は、十勝会員の御芳苦に感謝しながら長時間をかけました。いい信頼関係が出来てよかった。食事は自炊と云うことで、今回は女性参加者に沢山お世話になりました。有り難い事でした。

翌朝はみんな早起きしました。天気は快晴です。自然の村は広くて、景色がよくて、小鳥もイッパイ、植物もイッパイ。みんな気持ちよかったのでしょうか。単独行動あり、数人で行動する人あり。みんな、みんな極めて行動的、活動的でありました。

極めつけは、「岩内仙峡」 谷底を見ると目がクラクラするほどの高さ。おまけに、ユラユラ揺れる吊り橋。水清く、美しく音を奏で、萌黄色に満ち溢れた溪谷の美しさを堪能しました。諸事万端、お世話をなさって下さった十勝会員の皆様に感謝申し上げます。

平成25年5月26日

各位

北海道ボランティアレンジャー協議会
オホーツク支部長 和泉 勇

平成25年度オホーツク支部秋季研修会について

(ご案内)

日頃より、当支部活動にご支援、ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

さて、標記につきまして下記の通り開催することに致しました。また、座学として最近、話題となっている生物多様性と外来種昆虫に関する話をテーマと致しました。お誘い合わせの上、多数ご参加下さいます様ご案内致します。

記

1、日時 平成25年9月14日(土)～9月15日(日)

2、場所 集合及び宿泊先 「セトセ温泉ホテル」
紋別郡遠軽町湯の里(瀬戸瀬温泉)
☎ 0158-44-2021

3、日程等

9/14(土)13:00 集合

受付後 自由時間(温泉入浴)

15:00～17:00 研修会

・テーマ 「オホーツク地域における在来昆虫の生態について」
—外来種による生物多様性への影響—

・講師 丸瀬布昆虫生態館 学芸員 喜田 和孝氏

18:00～焼き肉等による夕食懇親会

9/15(日) 6:30 起床

7:00 朝食準備

7:30 朝食

10:00～現地研修

・「黒曜石の露頭現場」の見学

・遠軽町埋蔵文化財センター・ジオパーク交流センター

12:00 現地解散

4、持ち物 洗面用具・バスタオル(浴衣・タオルあり)・米1合(1人当たり)

5、負担金 1名5,000円(夕食・朝食・宿泊代・懇親会費) 当温泉は深山幽谷のかけ流し秘湯です。水も美味しいので是非、空ボトルをご持参頂きお土産にどうぞ! 尚、当温泉ホテルでの食事は自炊となります。

6、申込み期日・ 9月 7日(土)

* 連絡先 網走市潮見5丁目122-15 (☎・FAX0152-43-1942)

ボラレン・オホーツク支部事務局 法師^{ほしと}人^{はるき} 春輝

E-mail hves-2012-3781@qb3.so-net.ne.jp

ボランティア・レンジャー育成研修会

平成25年度 受講者募集!



北海道には豊かな自然がたくさんあります。この豊かな自然をより多くの人に楽しんでもらい、また自然環境を大切にしてもらうために「ボランティア・レンジャー（自然解説員）」が、各方面で活躍しています。

今年も自然ふれあい交流館や野幌森林公園をフィールドにして「ボランティア・レンジャー」を育成する研修会を開催します。「自然」に興味・関心がある方、自然の中でボランティア活動をやってみたい方など、初心者向けの内容となっていますのでお気軽にご参加下さい。

人と自然との橋渡し役でもある「ボランティア・レンジャー」になりませんか！

◇開催日 平成25年10月25日(金)～27日(日) 3日間の研修会です(雨天決行)

◇場所 自然ふれあい交流館、野幌森林公園

◇内容
 25日(金) 自然と楽しむ「アウトドアゲーム」、安全管理のための「救急法」
 自然やガイド方法に関する「講演」、
 26日(土) 自然体験・観察の「プログラム作成と解説方法」
 人と自然との関わり方の「観察会」・「ナイトウォッチング」
 27日(日) 「プログラムのフィールド発表」など
 ※詳しいプログラムは裏面に記載しております。

◇費用 無料
 ※宿泊費、現地までの交通費、食事代などは各自負担願います。
 ※各当日は原則、現地集合、現地解散となります。
 ※自然ふれあい交流館(大沢口)の駐車場は無料。

◇定員 30名(受付期間:8月1日～9月29日) なお、定員になり次第締め切り致します。

◇対象 3日間通して参加できる方、満18歳以上で自然に興味・関心がある方

◇申込方法 ご希望の方は電話にて下記の必要事項を記入の上FAXでお送りいただくか、お電話で必要事項をお伝えの上、お申し込みください。

◇その他 当研修会に受講された方には、受講証と自然解説員のバッジを交付いたします。また「北海道ボランティア・レンジャー協議会」への入会も可能です。(希望者のみ)

主催：自然ふれあい交流館 共催：北海道ボランティア・レンジャー協議会

★お問い合わせ・お申し込み★

野幌森林公園 自然ふれあい交流館 (<http://www.kaitaku.or.jp/nfpvc.htm>)

〒069-0832 江別市西野幌 685-1 電話) 011-386-5832 FAX) 011-388-7058

〈キリトリ〉

お申込される方は、下記の申込票にご記入いただき送付いただくか、記入内容を電話でお伝えください

ふりがな 氏名	性別 男・女	年齢	才
住所：〒	電話番号： 緊急連絡先(携帯電話)：		
来館手段： 公共交通 ・ 自家用車 ・ 自転車 ・ 徒歩	職業：		

ボランティア・レンジャー育成研修会 2013

～プログラム～

○1日目【10月25日(金)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:20	開講式・オリエンテーション
10:30～12:00	野外実習【アウトドアゲーム】 ≫自然とのふれあいを楽しむ
12:00～13:00	休憩（昼食）
13:00～16:00	救急法（普通救命講習Ⅰ）
16:10～17:30	講義【自然ガイドで何を伝えるか】（予定） 講師：島田明英氏（自然ウォッチングセンター代表）
17:30	終了・解散

○2日目【10月26日(土)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:05	オリエンテーション
10:05～10:20	講義【リスクマネジメント】
10:20～11:40	野外実習【自然観察会】 ≫ボランティア・レンジャーの活動の実際 ≫自然体験活動の指導法
11:40～11:50	休憩
11:50～12:40	講義【自然について】
12:40～13:40	休憩（昼食）
13:40～14:10	講義【プログラム作成と解説方法（導入）】
14:10～17:30	実習【プログラム作成と解説方法】 ≫模擬ミニ解説の実演 ≫グループワークによるプログラム作成
17:30～17:50	休憩
17:50～19:00	野外実習【ナイトウォッチング】
19:00	終了

○3日目【10月27日(日)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:10	オリエンテーション
10:10～12:00	実習【プログラム作成】 ≫グループワークによるプログラム作成
12:00～13:00	休憩（昼食）
13:00～15:00	発表【フィールド発表】
15:00～15:30	ふりかえり
15:30～16:00	まとめ・講義 【北海道ボランティア・レンジャー協議会と ボランティアを行うにあたって】
16:00～16:30	閉講式・解散

※天候や主催者側の都合により、プログラムを変更する場合があります。

◇持ち物：野外活動に適した服装（長袖・長ズボン）、雨具、昼食・2日目夜の軽食など

◇アクセス：新札幌バスターミナル北レーン10番乗り場よりJR北海道バス「文京台循環線」乗車、
[文京台南町]下車、徒歩10分

☆お申込みされた方には、開催1ヶ月前を目途に詳細な内容・プログラムなどを送付いたします。

指定管理者制度が導入され、一般財団法人北海道開拓の村が、自然ふれあい交流館を管理運営しております。

自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成25年度 NO.1

平成25年4月25日発行

北海道ボランティア・レンジャー協議会

想像できない程の異常気象に見舞われ、野も山も街角もすべてが雪に覆いつくされた豪雪の今年の北国の冬。驚くほどあったその大雪も、春を感じさせる陽光が日増しに森に差し込んで、少しずつ雪解けが進んでいます。雪深い野幌の森にも、着実に“春の足音”が聞こえる頃になりました。

その深い雪の森に“早春の希望”のようなフキノトウやフクジュソウが雪を溶かして、もうすぐ春を連れて来ることでしょう。そして、やがて春を告げる花々がいつせいに咲き出す頃となりましょう。森の中の野鳥たちの“囀り(さえずり)”の声も、“恋の季節”の到来を予感させています。

今日は、野幌の森に春を告げる“花たち”と“野鳥たち”を紹介します。

野幌の森に春を告げる花たち

○ **アキタブキ** (秋田蓴) キク科 花の色：黄色 ※北海道と秋田県・岩手県まで分布
別名“大蓴”・“山蓴”とも呼ばれる。(名前の由来) フキの由来は諸説があるが、①フユキ(冬黄)の略。冬に黄色の花を咲かせるから。②旅先の用便のフキ(拭)ものに用いたからという説もある。

「アキタブキ」は、本州に分布する「フキ」よりも大型で、高さが2メートル、葉の直径が1.5メートル以上のものをいう。北海道内に生えるのはすべてこれを指す。足寄町の巨大なフキ「ラワンフキ」もこれである。

香り高く、ほろ苦い早春の味覚「フキノトウ」は、花のつぼみの集まった部分をさす。フキは雄花と雌花が別株の“雌雄異株”で、雄花は黄色の星形、雌花は白く糸状のブラシのような形をしている。地下茎と種子の両方で繁殖する。

○ **エゾエンゴサク** (蝦夷延胡索) ケシ科 花の色：青、他に紫・白・ピンクもある。

別名は“雨降り花”。この花を取ると次の日は雨になるよ、と小さいころ祖母に教わった。またの名を“蜜吸花”とも言う。よくこの花の甘い蜜を吸い、おやつ代わりにした思い出がある。

ケシ科では唯一食用になる植物。

(名前の由来) 「蝦夷」は北海道で発見されたので。

「延胡索」は漢方薬で、鎮痛などに利用したから。

マルハナバチと共生関係。このハチが受粉を助ける。

開花はマルハナバチの冬眠から覚める時期を待って

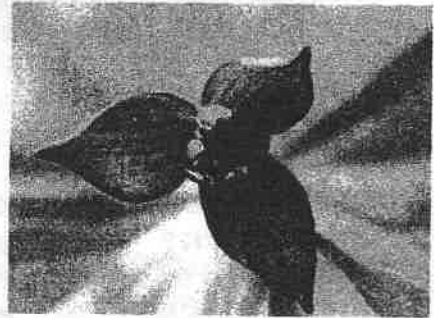
咲く。アリが種子を散布してこの花を拡大させている。

○ **エンレイソウ** (延齡草) ユリ科

花の色は、あずき色から緑色まで。別名は“雨降牡丹”。花弁がなく、花弁に見えるのは3枚のがく片。(名前の由来) 実生から開花まで10年以上もかかり、長寿の花なので、「延齡草」と名付けられた。根は腹痛止めなどの薬用になる。

開花し実ができる、あとは来年の春までひたすら寝て過ごす。種子はアリが散布する。

野幌森林公園にはエンレイソウの他に、白花のミヤマエンレイソウ(シロバナノエンレイソウ)、オオバナノエンレイソウの3種がある。ユリ科の植物は花弁が6枚であるが、エンレイソウ以外の種類はその名残の6枚を残している。白い色の花弁は3枚だが、緑色のところは花弁に進化せずに3枚のがく片として残ったものである。またエンレイソウ属の花は、3を基数にしている。葉は3枚、花弁とがく片も0~3枚、雄しべは3の倍数の6個である。



野幌の森に春を告げる野鳥たち

- ミソサザイ (鶺鴒) ミソサザイ科 北海道 (留鳥) ※沖縄を除く全国 (留鳥・漂鳥)

雪の残る春先の沢沿いの林の中で、よく響く音量のある大きな声でさえずっている鳥。ズズメより二周りも小柄な、日本で最小の鳥である。体重はわずか10グラム。

(名前の由来) 人を恐れず、人家のまわりの溝にも現われるので「みそ」、「さざい」は「小さい鳥」という意味からつけられた。雄と雌は全身茶褐色で区別はない。

“さえずり”は「ピピピツイツイツイ、チュリリリリ・・・、チヨチヨ」などと、体に似ずに大声で玉を転がすように早口で鳴く。短い尾をピンと上げた姿勢をよくとる。

鳥の世界では、一般的に配偶様式は“一夫一妻”だが、この鳥は“一夫多妻”で、雄がいくつもの巣をつくって雌に求愛する。

- カワラヒワ (河原鶺) アトリ科

北海道 (夏鳥)一部越冬。※本州から九州 (留鳥・漂鳥)。
体の色は、雄の方が雌より緑色味で黄色が強い。

(名前の由来) 主に河原に多く、「ひわ」は「可憐で若々しい」と言う意味からつけられたという。

鳴き声は、普通は「キリリコロロ・・・、ビーン」など。

“さえずり”はこれに「チョンチョンチョン」や「ジューイ」とか「ビーン」を組み合わせた鳴き声。

この鳥には結婚のための独特の儀式があり、集団見合いを通じて雄同士が闘い、強いものが雌に求愛し、つがいとなって出ていく。そして集団はまた次の雄を決定するための闘いに入る。

夫婦は仲むつまじく、卵をあたためている雌に雄が餌を運んだりする。

- アオサギ (蒼鷺) サギ科 北海道 (夏鳥)一部越冬 ※本州・四国 (留鳥・漂鳥)、九州以南 (冬鳥)

日本産のサギ類では最大の鳥。雄と雌は同じ色。繁殖期には足と嘴が赤みを帯びる。
(名前の由来) 「さぎ」は昔やかましく騒ぐことを「ささぎ」といい、それが「サギ」と呼ばれるようになったという。「アオサギ」は、背中が灰色がかった青色のサギだからそう命名された。

鳴き声は、「ゴア」と低い濁った声で鳴く。警戒心が強く、人を近づけない野生的な鳥。

飛んでいる姿を見ると「ツル」にまちがえられるが、サギ類は首をS字形にちぢめて飛ぶ。

この鳥は集団で繁殖しコロニーを作る。かつては野幌森林公園にも北海道を代表する大きな集団繁殖地のコロニーがあったが、外来移入種のアライグマに巣の卵や雛が襲われて、コロニーは札幌近郊に分散してしまい、今は野幌にはわずかに残るのみである。



☆ (野鳥観察のための「用語クイズ」) ☆

Q「留鳥」ってなに? (答え) 北海道に1年中すんでいて、季節的に移動しない鳥のこと。

Q「漂鳥」(ひょうちょう)ってなに? (答え) 一年中同じ地方にすむが、夏は山地や北日本に、冬は低地や南日本に移動する鳥のこと。

Q「夏鳥」ってなに? (答え) 繁殖するために北海道にやってくる渡り鳥のこと。春に渡って来て夏を過ごし、秋南方へ渡って越冬する鳥のこと。

Q「冬鳥」ってなに? (答え) 越冬するために北海道にやってくる渡り鳥のこと。秋に渡って来て冬を過ごし、春に北方へ渡って繁殖する鳥のこと。

★5月の観察会

☆「春のありがとう観察会」5月12日(日) 10:00~14:30 (集合:野幌ふれあい交流館)

☆「恵庭公園観察会」5月19日(日) 10:00~12:00 (集合:恵庭公園駐車場)

☆「三角山登山観察会」5月26日(日) 10:00~14:00 (集合:山の手(緑化会)登山口)

自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報
 平成25年度 NO. 2
 平成25年5月12日発行
 北海道ボランティア・レンジャー協議会

野幌原始林？

古くから札幌やその近郊に住んでいる方や、年齢をかさねている方が、愛着をこめ野幌森林公園を「野幌原始林」とよぶことがあります。原始林との語感からは、手つかずのうっそうとした森のイメージを受けますが、野幌森林公園の沿革から野幌原始林についての項目を調べてみました。

- 1921年(大正10年) 林内の一部トドマツ林など3地域322㍊が史跡名勝天然記念物野幌原始林に指定される。
- 1952年(昭和27年) 天然記念物野幌原始林が特別天然記念物野幌原始林に昇格指定。
- 1954年(昭和29年) 洞爺丸台風で大量の風倒木被害を出す。
- 1959年(昭和35年) 洞爺丸台風の被害のため特別天然記念物野幌原始林の一部が、そして昭和37年に残りの部分も北広島地域(40㍊)を除き解除される。

野幌森林公園要覧(公園事務所)、自然ガイド野幌森林公園(道新) 引用

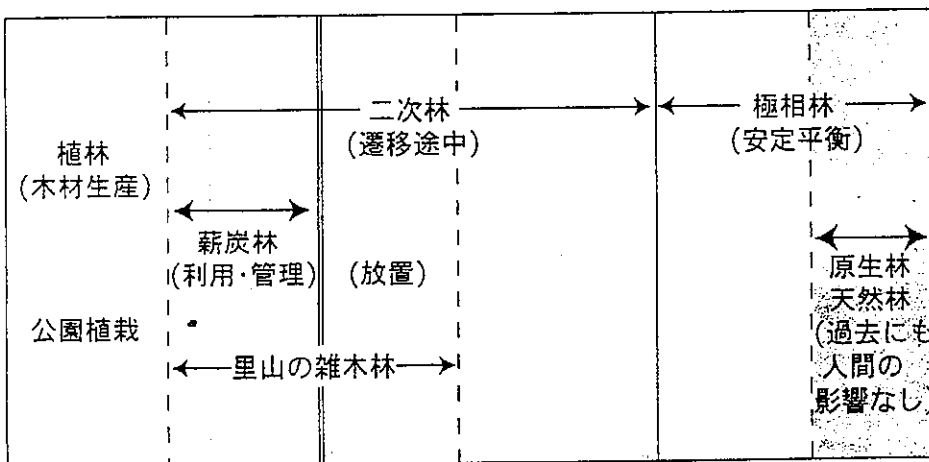
現在、公園内には特別天然記念物原始林(原始林)に指定されているエリアはなく、北広島レクの森に隣接する国有林に40㍊弱の原始林が残っているにすぎません。

原生林と原始林

原始林と類似する言葉に「原生林」という言い方もあります。この二つは共通点や違いがあるのでしょうか。「原生林」とはある程度昔から現在まで伐採や災害などによって森林破壊されたことがなく、またほとんど人手が入ったことのない森林をさします。原始林とは、今まで一度も人手が入ったことのない森で、原生林よりさらに貴重な森林と言っていいでしょう。しかし、昔から現在まで人手が一度も入らない場所は日本にはほとんど存在しませんので、まとまった伐採が行われていないという程度と考えられていて、国内にはいくつか原始林の名の下に保護を受けているのが実態です。

野幌森林公園内には現在原始林の指定をうけている地域はありませんが、森林保全の活動により自然の豊かな森が広がっています。この森を次世代につなげることが、森のさらなる豊かさにつながっていくことなのでしょう。(森林の変遷やその名称、森林のタイプ分けについては下図を見て理解いただければ幸いです。)

←人工林(管理あり)→ ←————— 自然林(管理なし) —————→



グリーンセイバーアドバンステキスト(樹木・環境ネットワーク協会) 引用

花言葉

花言葉は植物に象徴的な意味を持たせるために与えた言葉です。植物に象徴的な意味を担わせる伝統は世界の多くの文化が持っていますが、現在行われているような花言葉の慣行は、とりわけ 19 世紀の西欧社会で盛んになりました。

花言葉を利用して草花を楽しむ習慣が日本に輸入されたのは明治初期ですが、当初は輸入された花言葉をそのまま使っていましたが、その後、日本独特の花言葉も盛んに提案されるようになりました。

春に咲く可憐な花に与えられている花言葉を知りながら草花に興味を持つことも面白いと思います。

フキノトウ（蔦の蓋） 待望 愛嬌 真実は一つ 仲間

フクジュソウ（福寿草） 幸福 幸せを招く 永遠の幸福 回想 思い出 悲しき思い出

ニリンソウ（ニ輪草） 予断 友情（仲良く並んで咲く白い花） 協力

ミズバショウ（水芭蕉） 美しい思い出 変わらぬ美しさ

ザゼンソウ（坐禅草） 沈黙の愛 ひっそりと待つ

エンレイソウ（延齢草） 奥ゆかしい美しさ 落ち着いた美しさ

エゾエンゴサク（蝦夷延胡索） 妖精たちの秘密の舞踏会

スマレ（葶） 小さな愛 ちいさな幸せ

紫 貞節 誠実

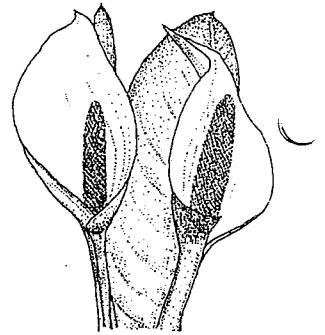
白 誠実 謙虚 あどけない恋 無邪気な恋

黄 牧歌的喜び 慎ましい喜び

カタクリ（片栗） 初恋 嫉妬 寂しさに耐える

ツクシ（土筆） 向上心 以外 驚き 努力

タンポポ（蒲公英） 真心の愛 神のお告げ 愛の信託 思わせぶり 別離



ダニに注意

○マダニによる感染症

今年1月マダニが媒介するウイルス感染症が報道されましたが、日本初の症例となったSFTS（重症熱性血小板減少症候群）で、国内での症例が確認されたのは12例、死者8人（4月末現在）で、その全てが西日本の症例となっています。マダニに刺されても発症することはまれですが、発症した場合の致死率は高く、治療法もまだまだ不明な点が多いということです。

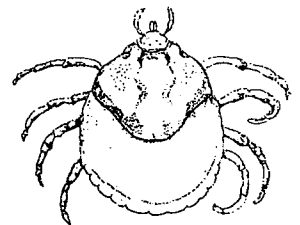
この他にマダニによる感染症には、リケッチャ菌による日本紅斑熱、ツツガムシ病、ポレリア菌によるイム病がありますが、これらには有効な抗菌剤があります。

○マダニの生態

マダニは♂3.2mm～ ♀2.3mm～ですが成長段階や個体差、吸血前後でサイズは異なります。マダニはハーラー器官と呼ばれる感覚器官を持ち、これによって哺乳類から発せられる二酸化炭素の匂いや体温、体臭、物理的振動などに反応して、枝や葉、草の上から飛び降り獲物にとりつき、あとは触覚によってなるべく毛のない場所を見つけ獲物の皮膚組織に食い込み吸血行為を行います。

○マダニ対策

- ・山、森、林の野外活動には長袖、長ズボン、帽子を着用し、襟元、袖口、ズボンの裾に隙間を作らない。
- ・野外活動が終わったら、着用の服を払ったりして、ついていかどうか確認する。仲間同士で確認しあうことも良い。
- ・マダニが皮膚に食い込んでしまったら無理して取らず、医療機関を受診する。



マダニ

「雪の結晶は、天から送られた手紙である。」

1. この言葉の出所は

『雪』 中谷宇吉郎著 岩波文庫の「第四 雪を作る話」 P162

「雪は高層において、まず中心部が出来、それが地表まで降ってくる間、各層においてそれぞれ異なる生長をして複雑な形になって地表へ達すると考えなければならない。それで、雪の結晶形および模様が如何なる条件で出来たかということがわかれば、結晶の顕微鏡写真を見れば、上層から地表までの大気の構造を知ることが出来るはずである。そのためには雪の結晶を人工的に作ってみて天然に見られる雪の全種類を作ることが出来れば、その実験室内の測定値から、今度は逆に、その形の雪が降った時の上層の気象の状態を類推することが出来るはずである。この様に見れば雪の結晶は、天から送られた手紙であるということが出来る。そして、その中の文句は、結晶の形及び模様という暗号で書かれているのである。その暗号を読み解く仕事が即ち人工雪の研究であるということも出来るのである。

II、雪の誕生

1. 低気圧

低気圧は、周囲より気圧が低いことです。周囲の気圧の高いところから空気が流れ込みます。流れ込んだ空気は上昇気流となって上っていきます。

2. 断熱膨張

上っていく空気は、上の方が気圧が低いからです膨張していきます。熱の出入りのない状態で空気が膨張すると温度が下がっていきます。

※反対の現象⇒フェーン現象

3. 飽和蒸気量

飽和水蒸気量は、1m³の空気に何グラムの水蒸気を含むかで表します。

温度	飽和水蒸気量
+15	12.8
+10	9.39
+5	6.79
0	4.85
-5	3.24
-10	2.14
-20	0.882

地表0度、1m³の空気が上昇して、-20度になったとすると、4.85-0.882=3.968、3.968gの水蒸気が余ってしまう。空気が膨張するからこの数

字にはならないでしょうが、余った過冷却状態で大気の中に含まれることとなります。

4. 凝縮核

過飽和の水蒸気は大気中の塵などを核として氷晶とよばれるものになります。

大気中の塵は私たちの日常生活でいう塵の大きさではありません。「大気中には特に上層にはそれら地上の塵よりも桁違いに小さい塵が無数に存在している、その大きさは分からないのであるが、大体分子が何万とか何百万とか集まった程度のものである。これらの塵は空気コロイドともいべきものである。大気の上層で雪の核になる塵というのはこの種のものであろうと思われる。」(前掲書P

61 第雪の結晶」雑話より)

5. 氷晶

高空に出来る氷晶は氷晶のような頭の尖った極めて小さい結晶です。これが、ゆらりゆらりと大気中を下ってくるときに水蒸気が凝結して成長してきます。ところが、この現象が一筋縄ではいきません。下から絶えず上昇気流が上がってきます。気温が高かったり、湿り気も多様な上昇気流です。乾いていけば、雪の結晶は昇華し、気体に逆戻りです。湿った気流であれば結晶が成長するでしょう。そして、どんな結晶になるかは、気温が大きく作用するでしょう。

雪は、数千メートルもの高空から、ゆらりゆらりと降ってくる途中の様々な気流に遭遇した結果として様々な結晶として私たちの目に触れます。

6. 雪の落下の速度

雪質によって落下速度は異なりますが、次のような数値があります。

平面樹枝結晶	30cm /S
粉雪	50cm /S
立体樹枝	57cm /S
霰	250cm /S

秒速30cmは、1kmの距離を1時間かけて落下するほどの速さです。見上げると、底なしの灰色の空から次々と降下してくる。誕生してから3時間あまりの時間をかけての姿と見ると感慨深い。

7. 雪に含まれる様々な結晶

一つの雪片に含まれる雪の結晶は、全部が同じこととはない。様々な結晶が寄り集まって降って来ます。

雪が誕生して地上に至る3時間。多様な気流・湿度・気温に遭遇したであります。様々な形の雪の結晶の寄り集まりは何を語るか。

III、雪の結晶一覧

I 針状結晶	1. 単六角結晶	
	2. 針状結晶	
II 角柱状結晶	1. 角柱結晶	
	2. 角柱複合体	
III 六角六花型結晶	1. 正六角花型	
	2. 二性結晶	
	3. 針形	
	4. 立体六角型	
	5. 複葉複合体	
	6. 複葉結晶	

IV 平面的結晶	1. 星形	
	2. 十二花	
	3. 平面的結晶型	
V 平面的複合体	1. 側面結晶	
	2. 「粉雪」	
VI 立体的結晶	1. 零散付結晶(各種)	
	2. 凝状雪	
	3. 粒	
VII 凝状雪	1. 氷片状	
	2. 氷層付	

IV、霜づくり

中谷博士は、初めに人工の霜づくりの研究をします。霜は雪のように空中に凝結核がなくても成長します。結晶は雪と同じ物が出来ます。

V、人工の雪づくり

低温研究所の設備が出来てから、雪の結晶づくりの研究を始めています。空中の凝結核はウサギの腹毛を使うことによって解決。空中に雪の結晶が出来ました。様々な条件を設定して、自然界にあるのと同じ雪の結晶を作れるようになります。このときに至って「雪の結晶は、天から送られた手紙である」という言葉が生まれたと考えていいでしょう。

VI、雪の名前

私たちの生活に密着している雪ですから、沢山の名前があります。ここでは、降る雪の名前、積もった雪に分け、前者について記述します。降る雪は地方色の濃いもの・降る様子に着目した名前・文学的、情緒的な名前など、多様なものがあります。

1. 気象用語として…多くの言葉を持っていません
雪・霰(アラレ)・雹(ヒョウ)・ミゾレぐらいです。他に、ダイヤモンドダスト(細氷)

2. 様々な名前

粉雪・つぶ雪・わた雪・ぼたん雪・たま雪・灰雪・もち雪・べた雪・みず雪

3. 文学的表现

淡雪・泡雪・大雪・こごめ雪・さざめ雪・たびら雪・どか雪・名残雪・にわか雪・濡れ雪・はだれ雪(まだら雪)・初雪・春の雪

4. 変化自在 1月30日の体験から

朝、吹雪の中除雪をする。積雪はパウダースノー。降る雪は、風に舞い羽毛の如し。間もなく風が止み青空が顔を出す。パラパラ音をたてて雪が降る。直径が1~2ミリほどのアラレ状の雪である。その後、直線上に地面をたたきつけるような降雪。角柱型の結晶の雪であった。日中は湿り、こ変わった。「雪の結晶は天から手紙である」。これは確かなことですが、どう読み解くか、興味深いことである。

VII、雪と人々の暮らし

江戸時代後期、越後の国、魚沼郡塩沢村に生まれた鈴木牧之(スズキボクシ)は『北越雪譜』の中で雪の結晶や里人の風俗習慣を克明に書いています。とりわけ、雪は人々の暮らしを圧迫していること。雪と戦い、雪と共に生き、雪の中に死んでいく里人の記述は胸を打つものがあります。

「吹き付ける雪のためにへし折られる枯れ枝がややもすると投げやりのように襲ってきた。吹きまく風にもまれて木という木は魔女の髪のように乱れるった。」真狩村有島農場の生活体験があるからでしょう有島作品には、すぐれた雪の表現が多いです。

平成23年4月より基金を開設した震災孤児遺児義援金は、24年12月末現在4億9千万円に達しました。

お蔭さまで、51人の孤児遺児の生活支援と、大学や専門学校などの学費と生活費仕送り分、また社会人として必要な自動車運転免許取得の教習所費用など、親が生きていれば子供のために頑張ったであろう、子育てと教育の資金を用意することが出来る見通しが立ちました。ざっと、一人1千万円と考えましたので、51人で5億1千万円を目標としましたが、戴き過ぎても申し訳がないので今年の3月31日を以って、基金を閉鎖させて頂きます。もしも将来、不足が生じるようなことがあれば、私の後を継ぐ市長たちをお願いしたいと思っています。

私の近い市長さんたちからこの基金のことをそれぞれの市民にお伝え頂き、また私のメルマガを読んで頂いた多くの個人、団体の方々からのご賛同を戴きました。日本中、世界中の皆様の温かいお気持ちにより、私や相馬市民の、震災犠牲者や孤児遺児たちへの思いの一部を叶えることが出来ますことに、この稿を持ちまして衷心より感謝いたします。

私がこの基金を思い立ったのは、消防団員たちの御遺体発見の知らせを次々と受けた時でした。避難誘導をしながら、迫りくる巨大な津波を見た彼らが最後に何を思ったろうかと、胸が苦しくなりました。30代が主流の消防団員たちは子育て世代。父親としての責任と喜びを人生の途中で奪われる彼らの無念に、言葉も出ませんでした。

子どもを健やかに育てたい。成長して自立した後は強く生きてほしい。それは父親としての生き甲斐でもあり、人生で持ちうる最大の喜びでもあります。競争社会の今日、強く生きる為の最良の手段はしっかりと教育をしてあげること、具体的に言えば高等教育を身に付けさせることです。その為の努力を人生の途中で奪われたとしたら、さぞや心残りだったろうと思ったのです。

今、彼らに代わって我われがしてあげられることは、18歳までの生活支援と高等教育進学などの学費と平均的な生活費の仕送りまでです。父親が果たす精神的な支えや、社会教育などは勿論、及びもつきません。せめて郷土の英霊となった彼らを誇りに思ってもらいたいと考えていた23年9月の慰霊祭で、磯部分団の副分団長だった阿部健一さんの長女の彩音さんから、父を誇りに思うことや将来進学して人の役に立つ仕事に就きたいという弔辞を聞いたときは涙をこらえるのが精いっぱいでした。以来、復興の最大の目標は教育と考えています。

去年メルマガで書いた、故稲山正弘分団長の長男の大輝君は千葉県への進学が決まりました。しっかり勉強して4年後は消防士になり、将来は消防長になって相馬地方の防災のリーダーになってほしいと祈っています。大輝君が相馬を離れて学生生活を送るにあたり、学費の一切と月々7万6千円の生活費、また自動車学校の講習料を、この基金に協力して下さったお一人おひとりの気持ちを添えて、分団長に代わって送らせて頂きます。

拙稿の読者諸兄で、この子らをはじめ相馬の子どもたちに継続的なご支援をお考えの方がおいででしたら、大学進学までの学力向上のための基金「教育復興子育て基金」にご支援をお願いします。この基金により、被災した磯部中学校、中村第二中学校の生徒全員にIPADを与え、数学のドリル、漢字の書き取り、理科の教材などに利用して来ました。何より将来生き抜くためのIT習熟に一役買うと思っています。

また仮設住宅の集会所に東京大学教育学部の大学院生を招いて週末に実施する「相馬寺子屋」の経費に充ててきました。その他にも、相馬の子どもたちの学力向上のために使うことにより、地域全体、特に遺児孤児たちが大学進学のための学力を身に付けるよう、一同頑張りたいと思っています。

子どもたちからの礼状

ご支援ありがとうございます。

私は、相馬市に住んでいる高校3年生です。最近、大学への進学が決まり、残りの高校生活を楽しんでいます。

まだ震災の影響は残っていますが、自分の夢に向かって、たくエルの人と協力して、がんばってみたいと思いますので、これからも、応援よろしくお願いします。

ご支援、本当にありがとうございます。

たくさん

ありがとう



3.5 (土) ももえより

寄付してくださった皆様へ
ごんにちは、ぼくはいわき市立
好間第二小学校5年生の
安並正晴です。ぼくは去
年の4月に相馬市から引
こしてきました。新しい学
校にもなれて新しい友達
も増えました。相馬でして
いた絵と水泳の勉強は
いわきでもがんばって
います。ぼくたちのために
あたたかい寄付やメッセージ
を送ってください。ありがとう

御支援下さった皆様へ

拝啓 この度は、御支援して、頂きまして、有難
御座います。私は、爾也^{ママ}と申します。平成二十三年三月
十一日(金)午後二時二十六分に東日本震災が発生し、一
時間後の午後三時四十六分、福島県相馬市に大津波
襲いました。私の自宅を家から四百メートルしか離れたところか
ら、自宅の勢で逃げた外、全壊。祖母、父、母、妻の
四名が亡くなりました。でも、二人の息子と弟は幸いに
助かりました。今は東京都府庁へ避難しているのが
福島県です。長男は、障害が有りませんが、バレーボールに
就任しています。次男、三男は、女子で中学三年生です。
次男、三男は、目標が有ります。

次男の因村様は、一般建築士に成り、地元ト有るお墓の

近くに自宅を造り住む事と、福島に放射線から身を守り

家と造り建てて行かれます。三男は、サッカー選手に成る事と。

小学生の時からサッカーをしていて、選抜した地元からプロサッカー

選手に在り、農作業は出来ませんが、サッカーの楽しさを

選手に成る事で子供に教える事と出来、サッカーの楽しさを

伝えて行かれています。親として出て来たお金の事はして

あげようと思っております。これから一歩一歩前へ進んで行か

ます。御支援誠に有難う御座います。

菊地 司

いつも、おうえんしていただき
てありがとうございます。ぼくは
今なわとび大会においていっしょ
けんめい練習しています。

御支援を頂きありがとうございます。

私運は、一歩一歩、歩みはゆとり

でも再建に向け、がんばっています。

皆様の過か一切支援にお礼を

下さる様生活してまいります。

菊地 司

佐藤 優 瞳 梅

祖父母様



～ 事務局便り ～



<お知らせ>

① 年6回発行（奇数月、第2水曜日）される北海道の広報紙「ほっかいどう」7月号の特集記事「北海道の生物多様性の保全に関する条例」にて、ボラレンの活動が掲載されます。6月9日、野幌森林公園での観察会時に取材されたものです。

② これからの研修会は以下の通りです。参加されると以外なひらめきもあるかもしれません。ぜひご参加下さい。

[I] 7月12日（金）～13日（土）釧路研修（人工干潟の草刈り、その他）

[II] 7月20日（土）～21日（日）道北研修（層雲峡、浮島湿原）

[III] 9月18日（火）又は19日（水）キノコ研修（道民の森・月形地区）

[IV] 9月14日（土）～15日（日）オホーツク支部研修会

[I]&[II]についてはハガキでご案内済みです。[III]&[IV]は後日ハガキでご案内します。なお車相乗り希望者は小林英世研修部長までご連絡して下さい。

③ 自然ふれあい交流館と共催の観察会における下見時における話題提供は以下の通りです。毎度も講師をして下さる会員にご協力いただき、ベテラン、初心者、ともに話題を育して研鑽を積んでいきたいです。

8月 7日（水） 春日順雄さん 「セリ科 シシウド属の性表現について」

9月 7日（土） 五十嵐一夫さん 「スズメバチへの備え」

10月 9日（水） 土屋忠司さん 「公園」

11月 9日（土） 小林英世さん 「越冬」

2月15日（土） 新谷良一さん 「かつての野幌原始林」

3月22日（土） 熊野美子さん 「冬芽」

④ 「ボランティア活動保険」の加入申し込をして、保険証をまだ受け取ってない方は観察会、ボラレンの行事の折にお渡しいたします。

⑤ 北海道ボランティア・レンジャー育成研修会の開催要項が今号に載っています。ボラレン一人ひとりがPRに努めることお願いいたします。

編集後記

- ・表紙のステキなカットはクローズ千鶴子さんが描いてくれました。
- ・定期総会、その前段での井口博貴さんの講演、世界各国の環境への取り組みなどが紹介され、とても教えられました。機会があれば、また講演を聞きたいものです。私も先生の著書『ニューエコロジー』をいただき感謝しています。
- ・福島県相馬市の立谷秀清市長から<礼状>が届いています。東日本震災、特に原発事故で多大な被害に見舞われました。今日、とても難しい面を抱えながらも懸命に再建に取り組んでいます。そうしたなかで、市長さんから、全国からの寄付金をもとに、遺児孤児の学業、生活支援のための基金として使っていくという内容の礼状が送られて来ています。遺児孤児たちの感謝の文や絵も同封されています。
- ・道は、今年から生物多様性の維持ために特定外来種の防除、駆除を積極的に実施しようとしています。総会でも生物多様性保存グループの黒田克巳主査から具体的に話されました。私たちの会でも、4年前からセイヨウマルハナバチの駆除、オオハンゴソウの防除などに積極的に取り組んできました。そのことが評価されたのと思われませんが、6月9日の「森の新緑観察会」の後で、春日会長が、インタビューを受けました。道が発行する広報誌に、短いと思われるが、その内容が掲載されます。ぜひ、読んでみてください。
- ・研修部長をされている小林英世さんが台湾の山・北大武山を登頂されてきました。これは前号に掲載した“玉山”に続いての登高となります。“玉山”の登山に関してはとても面白く、読まれた方も多かったようです。この第二の矢一どこかの首相が好きな表現のようですが—北大武山の登山記録もなかなか刺激的です。台湾の山々のルポを通して山旅を楽しめます。
- ・帯広での支部活動、(一泊2日)氷河時代からの生き残り“ケショウヤナギを見よう”も成功のうちに終わりました。支部の事務局長の長谷川さん、会長の春日さんのレポートが観察会の様子を感動的に伝えています。
- ・総会の議案書などが多くて、掲載できなかった原稿は次号に載せたい。
- ・次号、秋季号は10月末の発行で、原稿は10月15日まで、広報部佐藤まで。

『エゾマツ』 夏季号 105号

2013年6月27日 発行 会長 春日 順雄